令和３年度　地域の支え合い仕組みづくり事業

中間報告会実施報告

神奈川県　福祉子どもみらい局　共生推進本部室

ともに生きる

ともに生きる社会
かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

本資料の構成

1　中間報告会概要
2（平塚地域）プレゼン発表
3（　同上　）質疑応答
4（三浦地域）プレゼン発表
5（　同上　）質疑応答
6（藤沢地域）プレゼン発表
7（　同上　）質疑応答

末項　別表 個別事業一覧

1　中間報告会概要

1　中間報告会概要

　県では「ともに生きる社会かながわ」を実現していくため、それぞれの地域が住民、ＮＰＯ、市町村など各主体の力を生かし、自ら地域課題の解決を支援する「地域の支え合い仕組みづくり」事業を令和２年10月から県内３地域で行っています。
　事業開始から１年経過するのを機に、次のとおり各地域の報告を行っていただきました。

(1)日時　　・令和３年10月29日（金）９：30～11：30
(2)実施方法　・Zoomによるオンライン
(3)発表者　　・各地域代表者
(4)発表方法　・プレゼン資料を基に約10分で発表
　　・プレゼン後、プレゼン内容について質疑応答実施

2 （平塚地域）プレゼン発表

【平塚地域（城島地区）の課題（概要）】
【課題解決方法】
【プレゼン資料】／【説明者の発言】

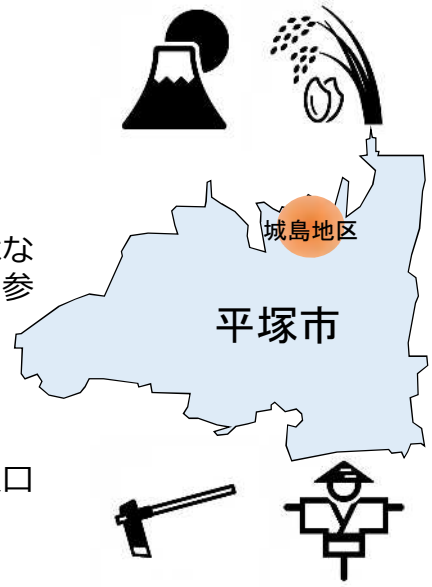
2 （平塚地域）プレゼン発表

※詳細は末項「（別表）個別事業一覧」参照願います。

【平塚地域（城島地区）の課題（概要）】
〇高齢化、少子化
〇耕作放棄地の増加

⇒何年後かには地域を維持できないのではないかと不安感があり、高齢者がいきいきと参画できる仕組みづくりが必要

【課題解決方法】
⇒地域の強みを活かして関係人口・交流人口を増やし、地域づくりを行う。



【プレゼン資料】

令和３年度　地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和３年10月29日）

高齢者活躍の仕組みづくり支援分野

地域資源活用による交流型体験の里づくり事業

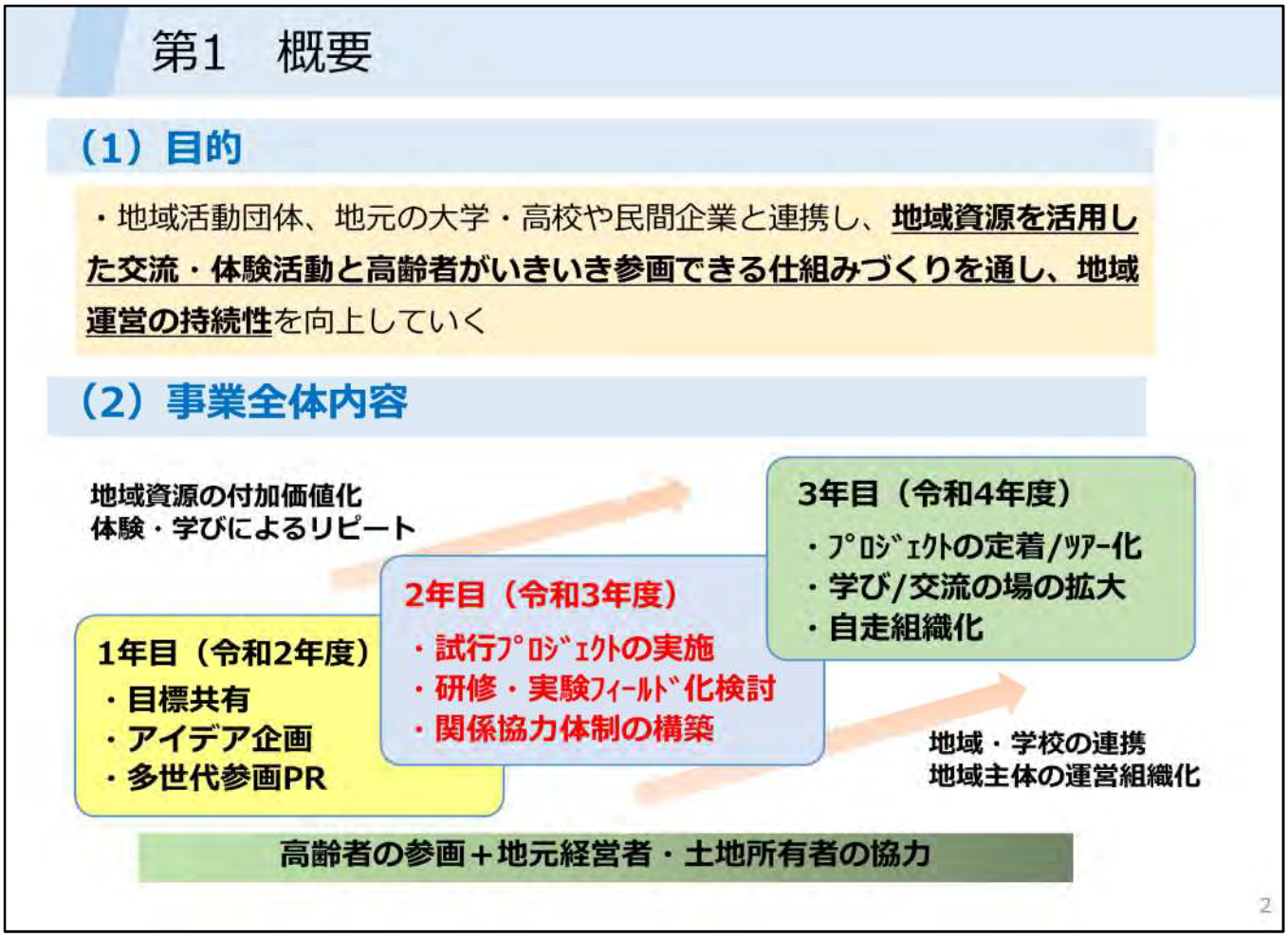
城島活力創造推進協議会

1

【説明者の発言】
　平塚市さんとそれから地元の城島（きじま）地区の皆さん、それから、湘南ＮＰＯサポートセンターの三つの協議体で事業を進めております。湘南ＮＰＯサポートセンターから説明いたします。よろしくお願いいたします。

　私どもの事業については、地域資源活用による交流型体験の里づくり事業ということでございます。

【プレゼン資料】



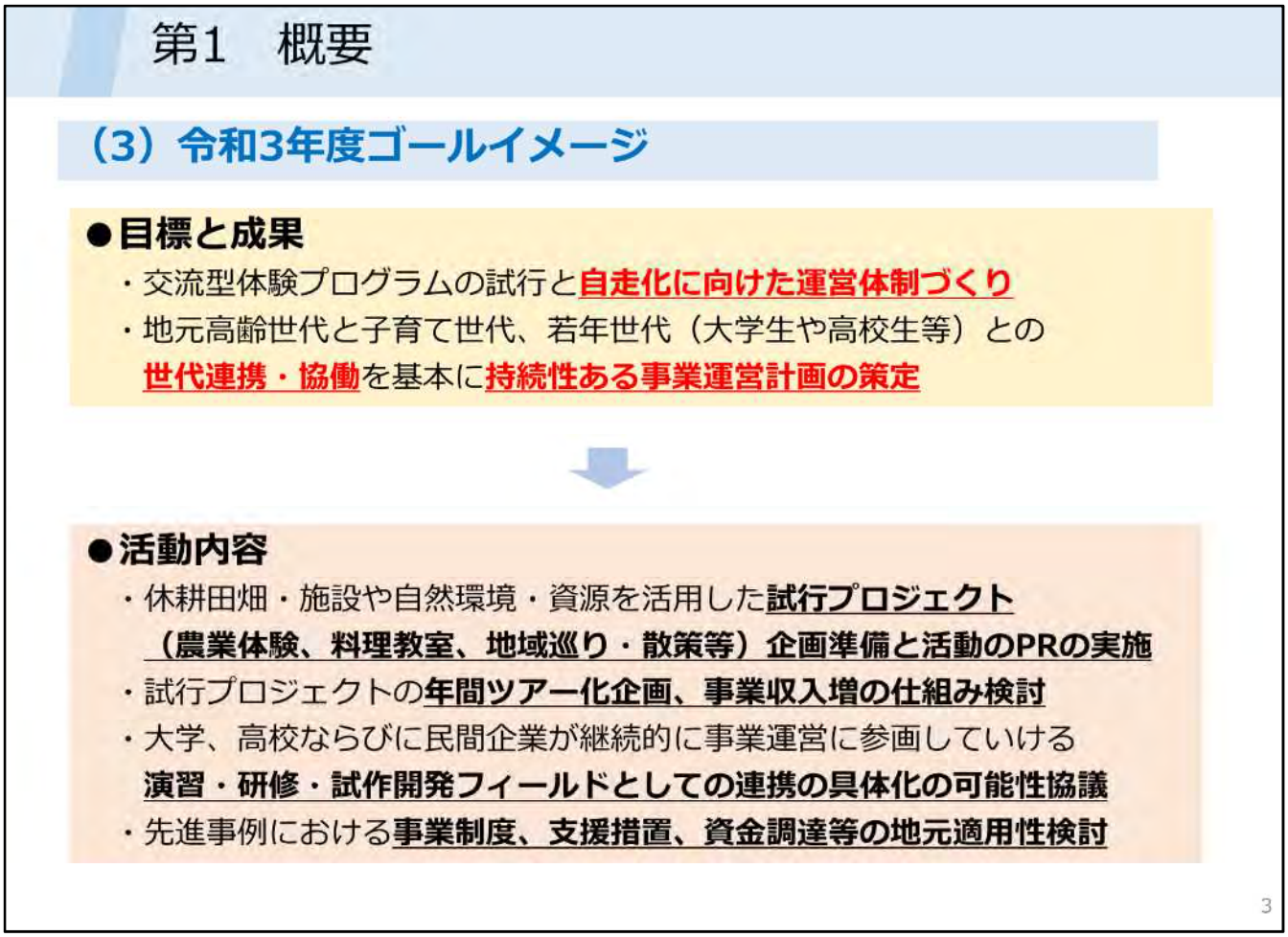
【説明者の発言】
　目的はそこにございますように、交流体験活動を通じて高齢者が生き生きと参画できる仕組みと、究極は、多世代参加の地域運営の持続性、こういったものを目指しているということです。

　事業の全体の3年間の構成ですが、1年目はそういった地域資源の付加価値化や学びについて、目標とかアイデアを言ったものをみんなで考えました。

　今年は2年目ということでございまして、その中から、交流体験の試行プロジェクトを幾つか実施し、それから展開していく体制も考えていきます。

　来年度は、そのプロジェクトを定着しツアー化というような形で、地域の運営を考えます。交流の場としての拡大を、自走化も含めて考えていくということを目指しております。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】
今年度、令和3年度のゴールイメージになります。

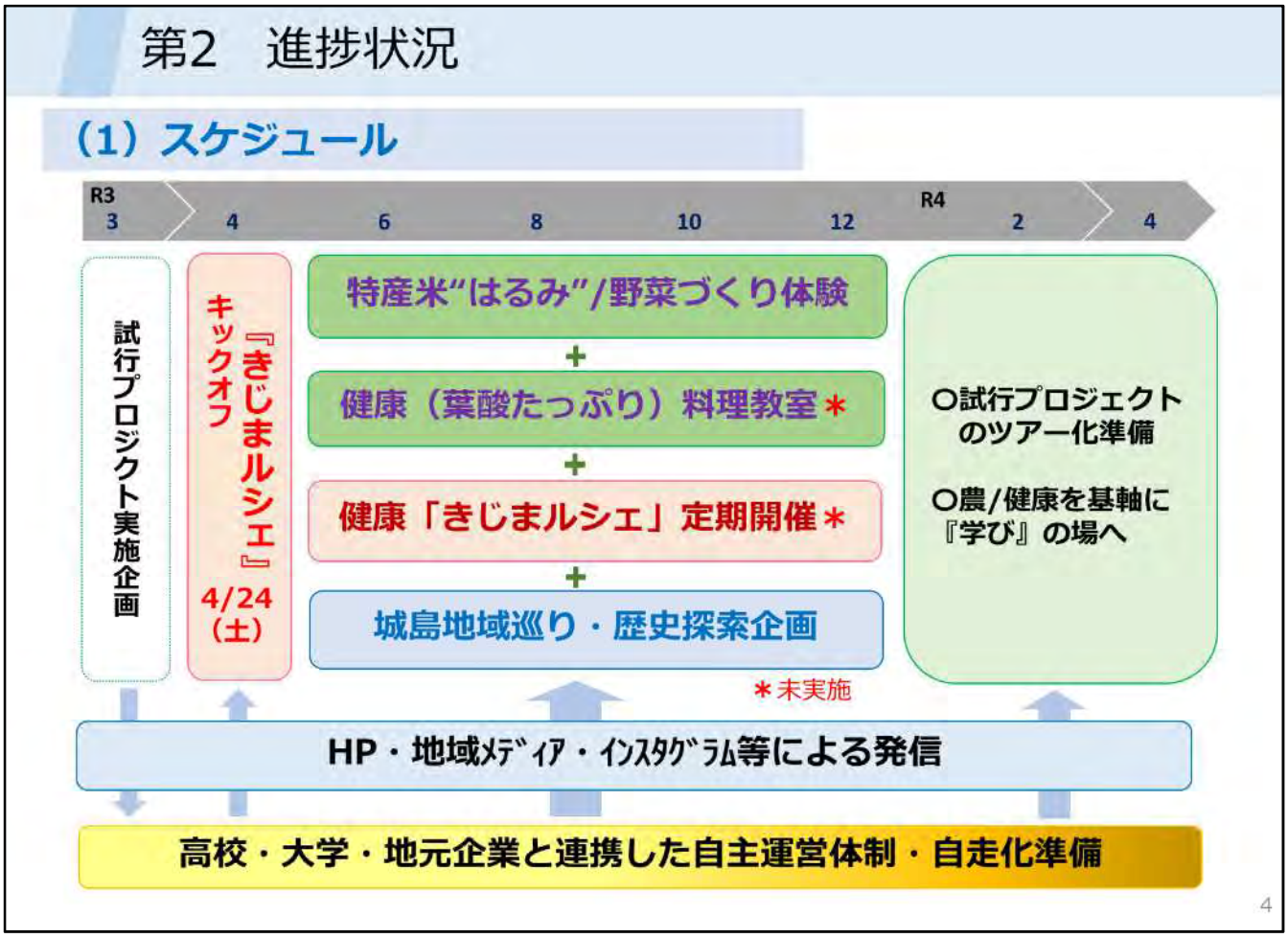
若干繰り返しのところはございますけれども、試行プロジェクトを通じて、「自走化していく上には、運営上の課題、体制づくりの留意点がどこにあるのか」こういったことを考えながら整えていこうと思っています。その時には、特に、地域側の多世代の連携、それから横展開として次世代の方々である大学生とか高校生といった人たちとの協働を基本にして、事業運営計画を立てていくということを目指しております。

具体的には、その下の「活動内容」にございますように、コロナ禍での厳しい状況でございますが企画準備をし、試行プロジェクトとして、農業体験、料理教室、地域めぐり等々を企画準備しています。その中で、単発ではなくて、年間のツアー化や事業収入の増加、こういったものも考えています。

それから、”学び”ということで、特に大学とか高校の中でのフィールドとして、ここ城島を捉えていっていただきたいようなことも考えております。

それから、事業として費用対効果も含めた、いろいろな支援措置とか資金調達等、どういったものが可能性があるかというのを探っていこうということです。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】

今年については、4月にキックオフのマルシェを開催をしました。後程ご説明します。

また、大きな柱としては、「野菜農業体験の教室」。

それから、平塚市のメインのプロジェクトの一つである「葉酸を活用した料理教室」があります。

そして「きじまルシェ」、「地域巡り」この4本立てで進めていきます。

これをＰＲするということでホームページ、Instagram等々を開設をしてございます。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】
　その中で（令和３年）4月24日には、田植え前の蓮華の田んぼでマルシェを開催してこの事業の紹介等を行いました。

　参加者が200名ということで地元の方以外にも、市外までにはなかなかＰＲが行き届かなかったということがございますが、市内は比較的参加者が多かったです。

　スタッフとしては、大学生、高校生含めて60名ということで、そこに写真があるような形で、大山の麓で広々としたところで実施をいたしました。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】
　農業体験の方は、5月から11月の全6回のところ、現在5回実施しております。

　これは田植えや稲刈り、それから地元の野菜の植え付け～収穫までということで、21家族、全体では70名ぐらいの方々の参加いただいております。1回ごとに大体20名ぐらいのスタッフで、学生さんにも協力いただいて進めております。参加費は1家族1万円ということで進めております。

　スライドの右側の方に、田植えの様子ですとか、サツマイモの植え付けの様子とか、こういったことを示してございます。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】

それだけですとよくある農業体験のイベントということになりますが、我々の中では交流体験で”学び”ということで、特にこの地域の自然と歴史を「学びの素材」ということで、子供たち、それから高齢者の方にも再発見というような形で進めていく事業を検討しています。

４つほど既に実施をしております。自然農法の味噌作りの準備ということで、これは畑を開いていくというところですが、7月18日実施しました。

スライド右側の方に少し大きい池がある写真がありますがこれは弁天池ということで、もう数十年、あまり手がつけられていなかった遊水池の再生をしました。

それから、ダイヤモンド富士が非常に綺麗なところということで、星空観察とセットで、そういったものをやろうかと考えています。

それから、新川の秋景色散策です。これは農業用水路なんですが、上流は湧水です。地域の生態系ということを幅広く学んでいくということで、そのためにはどういうアイディア、どういうポイントを子供たちに伝えたらいいか、そういったことのための実験を行いました。

情報発信は、「城島へようこそ」（※https://hiratsuka-kijima.jimdofree.com/　）というホームページ、「きじまルシェ」というInstagram（アカウント「kijimarche」）、地元のケーブルテレビでは、こういった企画準備の様子を放送していただいてます。やはり地域の方々に知っていただくということでは、公民館だよりにこの事業報告を毎月へ行ってます。

それから、自走化ということでは、東海大学の健康学部、工学部の学生さんの卒論フィールドとして使っていただいています。それから、平塚農商高校さんには、生徒の商業研究で、城島を素材にしていただいて県の方での発表をし最優秀賞をいただいたということを聞いてます（※神奈川県生徒商業研究発表会。神奈川県高等学校教科研究会商業部会が主催）。

また、地元の組織と、昨今は転入者が少しずつ増えてますので、そういった方々との連携を図りつつあるということです。

【プレゼン資料】

第2　進捗状況

（3）振り返り・課題

①多世代参画に向けた情報発信の工夫

・コロナ禍長期化の下、メール活用の情報共有、HP／インスタグラムによる事業周知に努めたが、ICT環境・利用の差異等による迅速な企画協議、実践調整が立ち遅れ

→利用しやすいSNS活用、バイブリット（対面・オンラインを組合せ）運用

→地元メディア（湘南CATV、湘南タウンニュース等）活用による幅広いPR

②学び・体験教育等関係機関との連携

・イベント・飲食自粛、三密対策等の長期化により、参加者募集型での試行体験プロジェクトの実践準備、運営関係者の連携構築が立ち遅れ

→既存活動との共催、地域教育関係者との連携等の市内外のパイプづくり

→体験ツアー化を見据えた豆知識、テキスト等、“学び”の付加価値づくり

③自主運営・自走化への準備

・地元主体の事業運営、事業収入検討を推進する関係機関、担い手参画が立ち遅れ

→事業共感者（地縁者、転入者）の拡大と体制づくり

8

【説明者の発言】

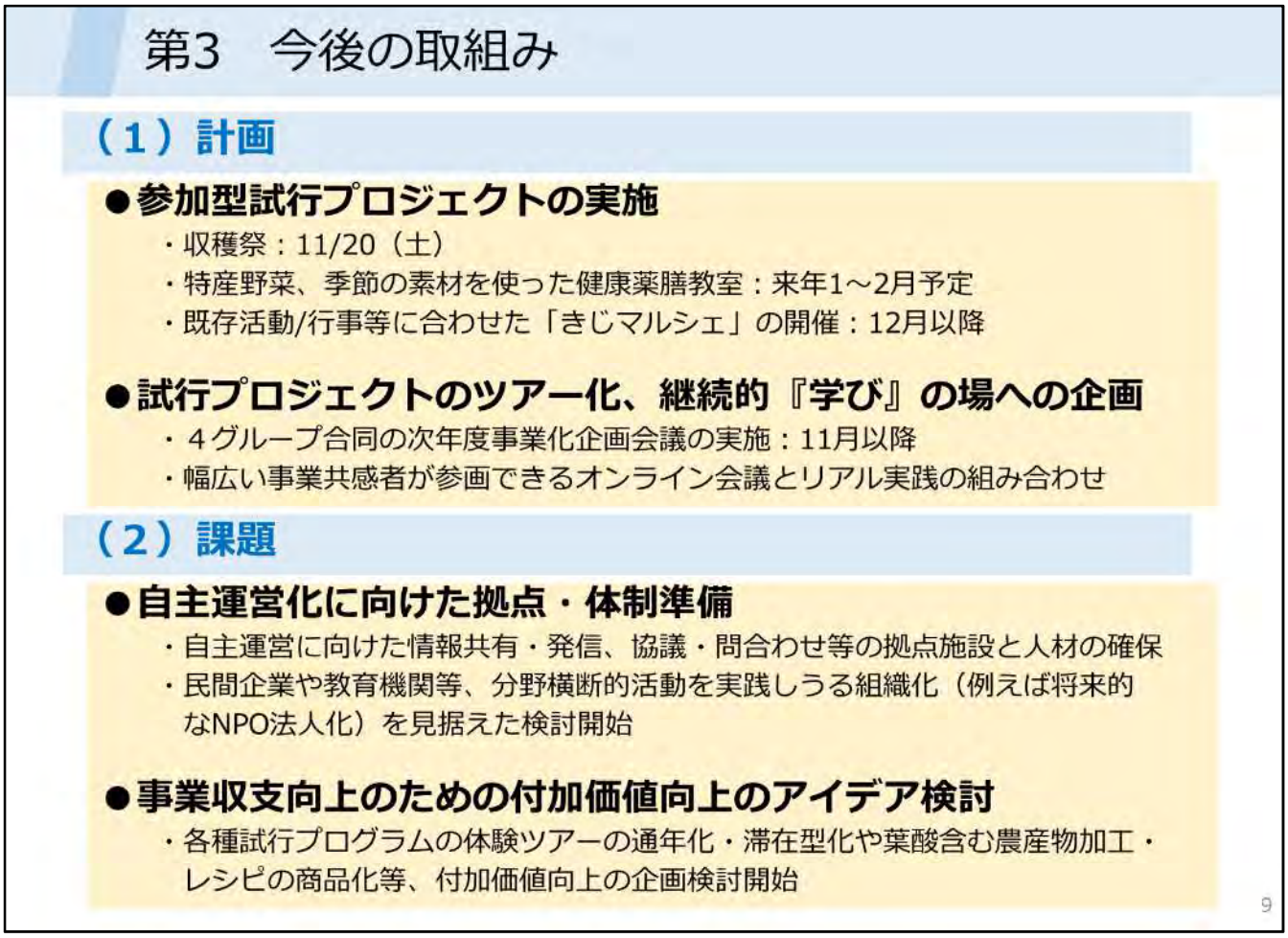
そういった中でいくつかの課題ということでは、やはり高齢者の方々が中心ですので、色々な情報の共有がなかなかコロナ禍で難しくなってるということです。

ＳＮＳの活用とか、それから対面、オンラインあわせてハイブリッドできめ細かくやっているということ。それから地元のメディアをなるべく使って、知っていただくということをやってます。

今後については、”学び”の付加価値化。ただ体験するだけではなくて、色々な豆知識等を「こういうことなんだ」というテキストみたいなものを作っていく必要があるのかなというのを考えてます。

それから、自走化に向けて、地縁の地元の方と新しく城島地区に来られた方との、調和というような「連携」が一つ大きな課題であろうと思っております。

【プレゼン資料】



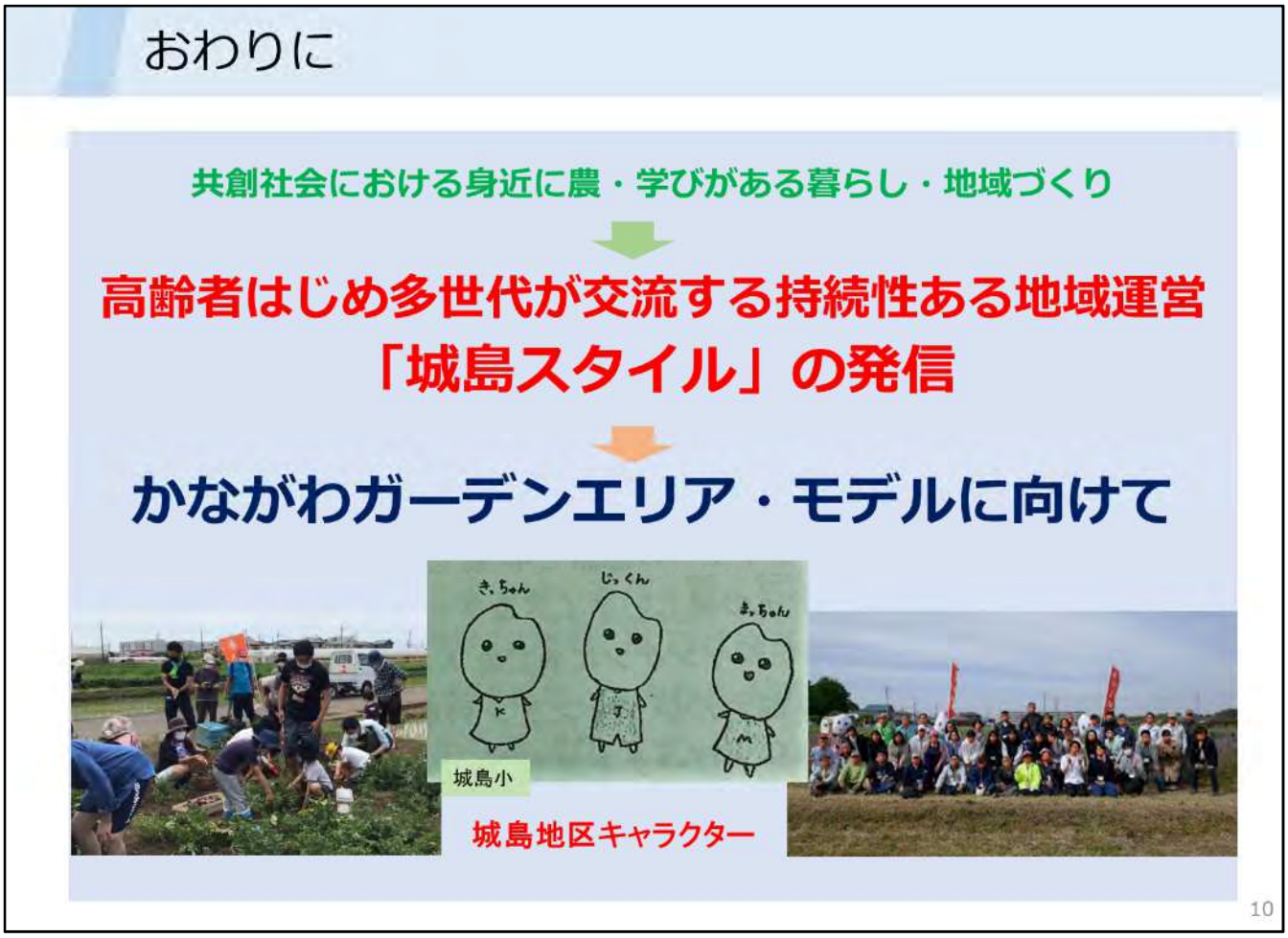
【説明者の発言】
　今後については、11月20日に収穫祭を行います。

　また、ようやく緊急事態宣言が解除されましたので、健康薬膳料理教室を来年に開催したいと思っております。

　それから、試行プロジェクトのツアー化、継続的な学びの場ということで、今は少人数でリアルで会議を中心に４つのワーキンググループで進めているんですが、これを全体会議として進めていきたいと思っております。

　課題といたしましては、自走化に向けては、拠点、場所、体制を整えていきます。特に、教育機関において”学び”ということがございますので、そういった受け皿を考えると今のような地域の自主組織では難しくて、NPO法人化というものも考えていく必要があるのかなと思っています。

　それともう1点、「付加価値化の向上」ということで、先ほどから繰り返していますが、ツアー化ですとか、それから、新しいレシピみたいなものをみんなで考えていくと、こういったことも少しずつ進めていくところかなと思っております。



【説明者の発言】
　これは我々の思いということですけれども、身近に「農」や”学び”がある暮らしという中で「持続性ある地域」、この運営を「城島スタイル」というふうに我々呼んでいまして、これを神奈川県中央部西部のガーデンエリア・モデルというようなことで発信、それから、展開できるきっかけになったらいいなというふうに考えております。

　以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

3 （平塚地域）プレゼン後の質疑応答

（１）きじまルシェについて
（２）組織化について
（３）まちづくり活動の質について
（４）地域運営について
（５）自走化について

3 （平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(1)　きじまルシェについて

Q1-1
「高齢者の活躍の場」という提案事業であるが、４月に行われた「きじまルシェ」では、高齢者の参加人数はどれくらいか？

A1-1
・スタッフ約60名中約40名が高齢者である。
・70代の方々に多く参加いただいた。
・他約20名は、地域の学生（東海大学や平塚農商高校の生徒さんら）。

Q1-2
高齢者参加の促し方はどのようにしたか？

A1-2
・公民館だよりにて、全戸配布の紙ベース。
・代表者会議を高頻度で実施。マルシェまでは月2回ペース。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(2)　組織化について

Q2
将来的に、NPO法人化も含めての組織化の計画とあったが、具体的な方針はあるか？

A2
・未だ見えないところがある。
・ただ、今年1年試行プロジェクトを行い、来年1年間でツアー化という目途が立てば、その時には再来年度に向けてはもう準備しなくてはいけないと思っている。
・NPO法人になるかどうかの方針とは別に、自走できる事務局や専門のスタッフを入れた形にしていきたいと考えている。

〇アドバイス
・組織化するにあたり、「NPO法人化に限らず」というところはその通りだと思う。
・収支状況等も考えた活動をしていくため、組織化をしようというその目安を早めに立てておくとよい。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　まちづくり活動の質について

Q３
これまでのまちづくり活動というのは「参加者数」「通行量」といった比較的大きな数で評価していていた。コロナ禍となり、「量」より「質」の方の説明を丁寧にしていく必要がある。「質」を測るようなアプローチはしたか？

A3（1/2）
（準備段階）
・「きじまルシェ」の集客対象をどうするか、かなり議論した。
・親子で参加できる企画を実施することで、「交流体験」「多世代連携」ということを実施するため工夫した。

（広報）
・（スライド10に記載の）「きっちゃん」、「じっくん」、「まっちゃん」という馴染みやすいキャラクターで、情報発信している。

⇒次ページへ続く

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　まちづくり活動の質について

Q３
これまでのまちづくり活動というのは「参加者数」「通行量」といった比較的大きな数で評価していていた。コロナ禍となり、「量」より「質」の方の説明を丁寧にしていく必要がある。「質」を測るようなアプローチはしたか？

A3（2/2）
（実施内容）
・「きじまルシェ」では、ＧＰＳ搭載トラクターや、1台数千万円もする田植え機を展示し、来場者に「農」の興味を持っていただいた。
・世代を超えた多くの人たちに来ていただきたいが、まずは平塚市内から来ていただけるというところからスタートしたい。

〇アドバイス
・パンデミックで劇的に変化し、これまでイベント成果報告だと判断が難しい。
・苦戦したこと、工夫したことをまとめておくことが、これからすごく大切になると思う。
・参加者が何人だったというだけではなく、苦労されたことをもう少し記載いただけるとすごくいいと思う。裏側が見えても構わない。
・そのようなことが大切になる時代と思うのでその辺り記録していただきたい。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　地域運営について

Q4-1
スライド２「（１）目的」にある「地域運営」とは、具体的に何か？

A4-1
（現状）
・地域の困りごとや課題（※）について、地域住民の方々が中心になって取り組んでいる。
※ゴミの問題や、空き家・空き地についての安全も含めて、どうしていくか等

（地元の認識）
・地元の方々は「城島地区は高齢化が進み、耕作放棄地も増加し、子供の遊ぶ場もない、子育ての環境もない」と、何年か後には自分たちの力で地域の安全安心活力を維持できないのではないかという不安感を持っている。

（地域づくりの方針）
・単に人口を増やせばよいのではなく、次の世代に城島という地域の良さを伝えて、その中で「安全、安心、元気」をみんなと一緒に取り組んでいく。
・今回の事業としては高齢者参画であるが、地域側からするともう少し幅を広くとらえていきたいと思っている。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　地域運営について

Q4-2
（A4-1を受けて）自治、互助という「お互い支え合って自分たちのことは自分たちでやっていこう」「困ってる人がいれば助けよう」というようなことをやっていきたいという目的があって、そのために手段として「農」という資源を生かしたイベントを行っていくとのことだが、イベントを通じて互助の意識が高まる、また、この地区には住んでいない方がこの地区に住んでる人の生活支援をするようなイメージか？

A4-2
・農地を維持していくのはもう負担だと思われる方もおり、「どうやって守る」か、だけではなく「どのように生かしていく」か、を考えなくてはいけない。
・「一緒に学び伝えていく」ということで、交流人口を増やしながら、関係人口を増やしながら進めていきたい。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　自走化について

Q5-1
自走化のための資金獲得は、どの分野（※）からどんなものを考えているか？「持続性のある地域運営のために資金を獲得する」であると、なかなか難しいものだと感じる。
※　例１：介護保険関係
　　例２：農業関係の補助金等

A5-1
（資金源）
・体験ツアーの参加費を資金源とする。
・料理教室やレシピ開発を行い、商品化して販売の収入を得る。

（考え方）
・農地はあくまでも場所である。
・基本的には“学び”ということをターゲットにしている。
・農業や自然という場を利用し、子供たちの体験学習が滞在型で年間ツアーとしてやっていく（交流人口の増加）。
・地元の大学生や高校生がサポート役にもなる（多世代間の交流）。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　自走化について

Q5-2
（A5-1を受けて）ツアーはおそらく参加費とで、トントンにしようと考えていると思われる。
農産物の加工は事業化には相当な規模になるが、どのように考えているか？

A5-2
・民間さんと手を組むのは、いろいろあるかと思うが事業を行うというのは早い話かもしれない
・しかし、まずは地元で成功体験を作り、足元を固めていきたい。
・平塚農商高校さんは、実験的に色々なことを地域と一緒に取り組んでいる。若い世代が、ここ城島をうまく取り込んでもらえるようなことで考えたい。

3（平塚地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　自走化について

Q5-3
（A5-2を受けて）事業費をかけずにコストを抑え少ない収入でやるイメージか？

A5-3
・商品開発はリスクを抱えながらやるということになると思われる。農家の方々が「全然駄目だったよね」「結局こんなことやって」というようなことにならないよう、まずは地元で成功体験を作りたい。

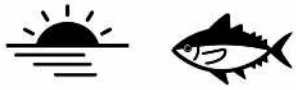
〇アドバイス
・本取組みはかなり注目されてると思う。というのは、どこでも考えられることで、どのように自走化していくのか、どこからお金を得て、どのように継続していくのかというところは、大変注目されるところである。
・ぜひ今後、さらに精緻化していっていただいて、皆さんにこれでいけると自信を持って言えるような形にしていただきたい。

４（三浦地域）プレゼン発表

【三浦地域の課題（概要）】
【課題解決方法】
【プレゼン資料】／【説明者の発言】

４（三浦地域）プレゼン発表

※詳細は末項「（別表）個別事業一覧」参照願います。



【三浦地域の課題（概要）】
〇高齢化
〇豊富な地域資源(漁業、自然や景観等)を活かし、メディアなどで発信し交流人口や関係人口を増加させたい。

⇒地域情報を発信する市民記者としていきいきと活躍する高齢者を育成し、三浦市を盛り上げる

【課題解決方法】
⇒IT機器初心者もいれば、ITスキルが高く今にもメディアで情報発信できる人もいる。
⇒それぞれのニーズに合った支援が必要

【プレゼン資料】

令和３年度　地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和３年10月29日）

高齢者活躍の仕組みづくり支援分野

Don‘t tell anyone!
地域資源情報を集めて広めて繋がろう大作戦！

三浦市地域資源情報プラットフォーム推進協議会

1

【説明者の発言】
　三浦市地域資源情報プラットフォーム新協議会より中間報告をいたします。まず私たちの協議会のメンバーが今日参加していますので、先にご紹介をさせていただきます。

　三浦市から市民協働課担当者、それから、高齢介護課担当者がいらしています。

　そして、三浦市社会福祉協議会の担当者がいらっしゃいます。

　そして、私、協議会の事務局をしております三浦市民交流センターニナイテの担当です。どうぞよろしくお願いします。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　地域の背景、課題、現状

- 三浦半島の最南端に位置し一次産業が中心の人口約42,000人の都市
- 高齢化率40%を超えている。自慢できる数字は、約94%の自治会加入率だ。
- 地域活動では圧倒的に女性が中心で男性の参加は少数。また、企業に勤めていたリタイア組は地域との関わりが希薄で、交流経験がなく参加機会が乏しいとのこと。
- 団塊世代が70代を迎え、このようなリタイア組が増加し、引きこもってしまうと地域活動が停滞する危惧がある。
- 一方、三浦市の若者は定住意識が低い。都心の若者は地方移住に関心が高まっている傾向もある。

2

【説明者の発言】
第1の概要をご覧ください。地域の背景課題現状についてです。

人口約4万2000人、高齢化率40%を超える地域にあってリタイアした高齢者のひきこもりへの懸念を課題として認識し、この後の3ページ以降にある目的を設定いたしました。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の目的（その１）

活躍の場を見いだせないリタイア後の高齢者が、社会参加のきっかけとなる身近にある地域の良さ＝地域資源を再発見、再発掘し集約する活動に参加し、地域資源情報の集積と発信に貢献できるプラットフォームを作る。

そして！

高齢者が今まで培ってきた経験、知識、記憶、感性、地域の繋がり、地域の仲間などを総動員して、地域の良いところを集め整え記録し発信する活動をすすめる。

高齢者が地域メディアを活性化させる！

3

【説明者の発言】

私たちは三浦市に住むリタイアをした高齢者の皆さんが 地域の身近にある地域の良さ、地域資源を再発見再発掘して地域資源の情報を受発信するプラットフォームを作ることを、第1の目的としました。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の目的（その１）

高齢者が活躍して地域の魅力・地域の良さを誰もが知ることのできる仕組みができ、市内外へ地域の魅力が伝わります。

↓

新たに三浦市を好きになったり、移住に興味を持つ市外の人や、三浦市にずっと住みたいと思う若者層が増えることに繋がります。

↓

三浦市を好きになり、三浦市のために自分たちも行動を起こす者が増える。三浦市が持続的に市民の力で元気な街になる。

4

【説明者の発言】
　対象は高齢者から始まっていますが、活躍する高齢者がいること。そのこと自体が地域の魅力となって、世代を越えて、三浦のファンが増えて市民の力で元気の町になることを目指しています。

【プレゼン資料】

第1　概要

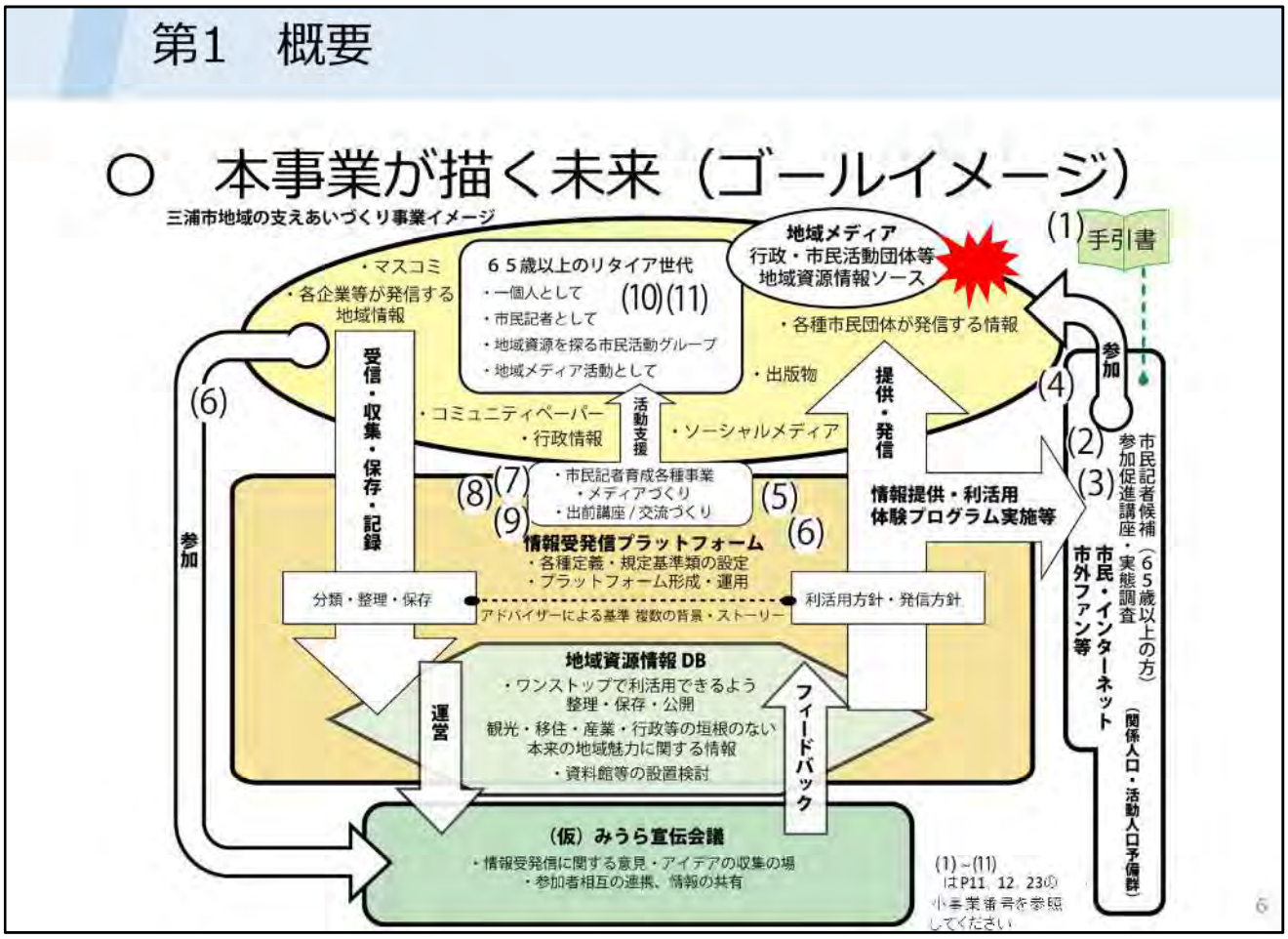
○　本事業が描く未来（ゴールイメージ）

- 高齢者が活躍する場があり、グループでも個人でも自由に活動することが可能となる。地域の魅力＝知財の集積がなされ、活用・発信が行われ、地域の魅力が広く伝わる環境が整備される。
- 高齢者がスキルを学び様々な地域メディアへ地域資源情報を発信し繋がりを感じることができるコミュニティがある。
- 地域資源情報の価値の最大化を図り、活躍していることを肌で感じることができるスキームが確立されている。
- 情報発信、情報共有を実践レベルで経験している過程でデジタルリテラシーを身につけ、日常から有事の際においてもスマホを活用している。

5

【説明者の発言】
　本事業が描く未来のゴールですが、高齢者の皆さんがいきいきと地域の情報の発信者になって、それと同時に、若い世代にとっても地域の良さを再発見再発掘する機会となり、この三浦で地域の魅力を発見し、生きがいを持つ連鎖が広がることを目指しています。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】
　こちらは当初から描いているゴールのイメージ図になります。

　提案事業では５つの事業で、2、3の取り組みを計画し、全体で11事業に取り組んでいます。それの取組み項目につきましては、皆さんのお手元の資料の11ページ12ページに一覧がございますので、ご覧いただければと思います。

　たくさんございますので、本日は本事業の取り組みについて、全体で4ページにわたって報告をします。資料の7ページから10ページに記載しております。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の取組内容

地域資源情報プラットフォームの整備と活動の展開

- 地域資源情報の定義を伝え、多様な参加形態を整備し、参加呼びかけの実施
- アドバイザーからの助言を得て、地域資源を収集・活用するためのノウハウの整備
- モデル活動となる新たなグループ形成を支援し、ノウハウをフィードバックする
- 地域資源受発信の体制整備、活用するためのルール化、対応するスタッフ教育の実施

7

【説明者の発言】
　地域資源情報プラットフォームの整備、活用の展開です。（１）から（６）に当たる取り組みをしています。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の取組内容

市民による多様な地域資源情報の発信

- 活動したいと考える高齢者向けに、多様な情報発信スキル向上のための講座等を実施。
- SNS、ウェブサイト、コミュニティペーパー、壁新聞など多様な媒体への情報発信のトライアル。
- 発信されている情報が一元化され周知される体制の整備

ネット
メディア

8

【説明者の発言】
　市民による多様な地域資源情報の発信として、取り組み（７）、（８）にあたる講座や情報の発信を行っています。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の取組内容

活躍していることを肌で感じることができる仕掛け＝価値の最大化

- 多世代、他地域の交流促進のモデルケースづくりのため大学の知見を活用した各プログラムのトライアル。
- 地域資源に関する出前講座の開催支援、展示会等交流プログラムの実施
- 各分野の情報とそれらを発信する人々の活動そのものを人文資源としてとらえ、センターのブログ等での紹介。
- 大学への情報提供、マッチング等を行い誘致し、インターンシップ及びフィールドワークを通じた、大学生と地元民との交流促進。
- 小さいけれども、貴重で大切な情報を丁寧に地域資源情報として収集するため、マニュアル及び体制整備。
- 市内の事業者や市民活動グループ等がPR等に帰する情報の活用を検討する場「仮）みうら宣伝会議」の実働。
- 地域に伝わるレシピ、貴重な自然資源、方言、人物との触れ合いなど市民主体の活動による体験プログラム化の試行。

9

【説明者の発言】
さらにこれを発展して、活躍していることを肌で感じることができる仕掛け、そして、（７）（８）（９）に関する、ご覧のような取り組みを進めています。

【プレゼン資料】

第1　概要

○　本事業の取組内容

対象世代の情報リテラシーの向上

- デジタルリテラシーを高める講座等実施
- SNS活用講座の開催、試行（テレビや新聞以外の情報源として活用できるなど伝達）
- 災害時に活用できるアプリ等の体験

地域の高齢者サロンでのスマホ教室

10

【説明者の発言】
対象世代の情報リテラシーの向上として、（１０）（１１）の取り組みを行っています。

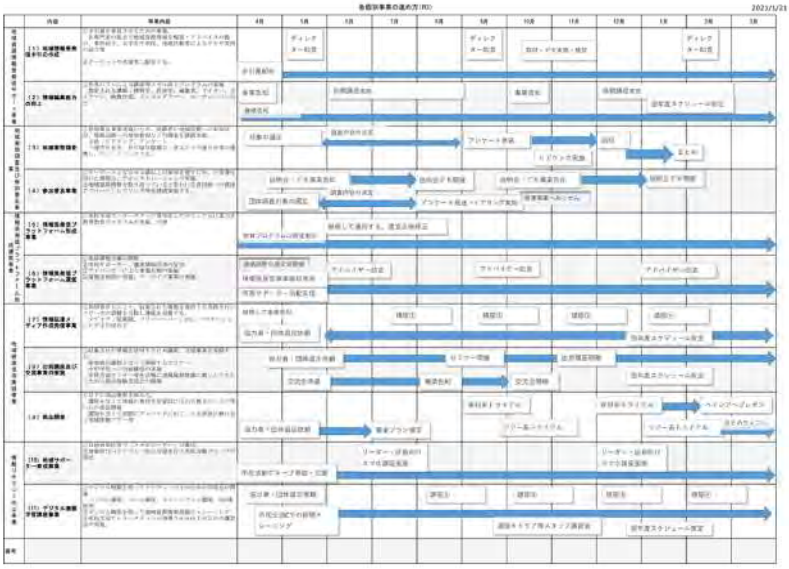
一つ一つの取り組みにつきましては、これから発表します進捗状況の中で触れて参ります。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　当初スケジュール

別添「スケジュール　各個別事業の進め方（R3）」を参照ください。

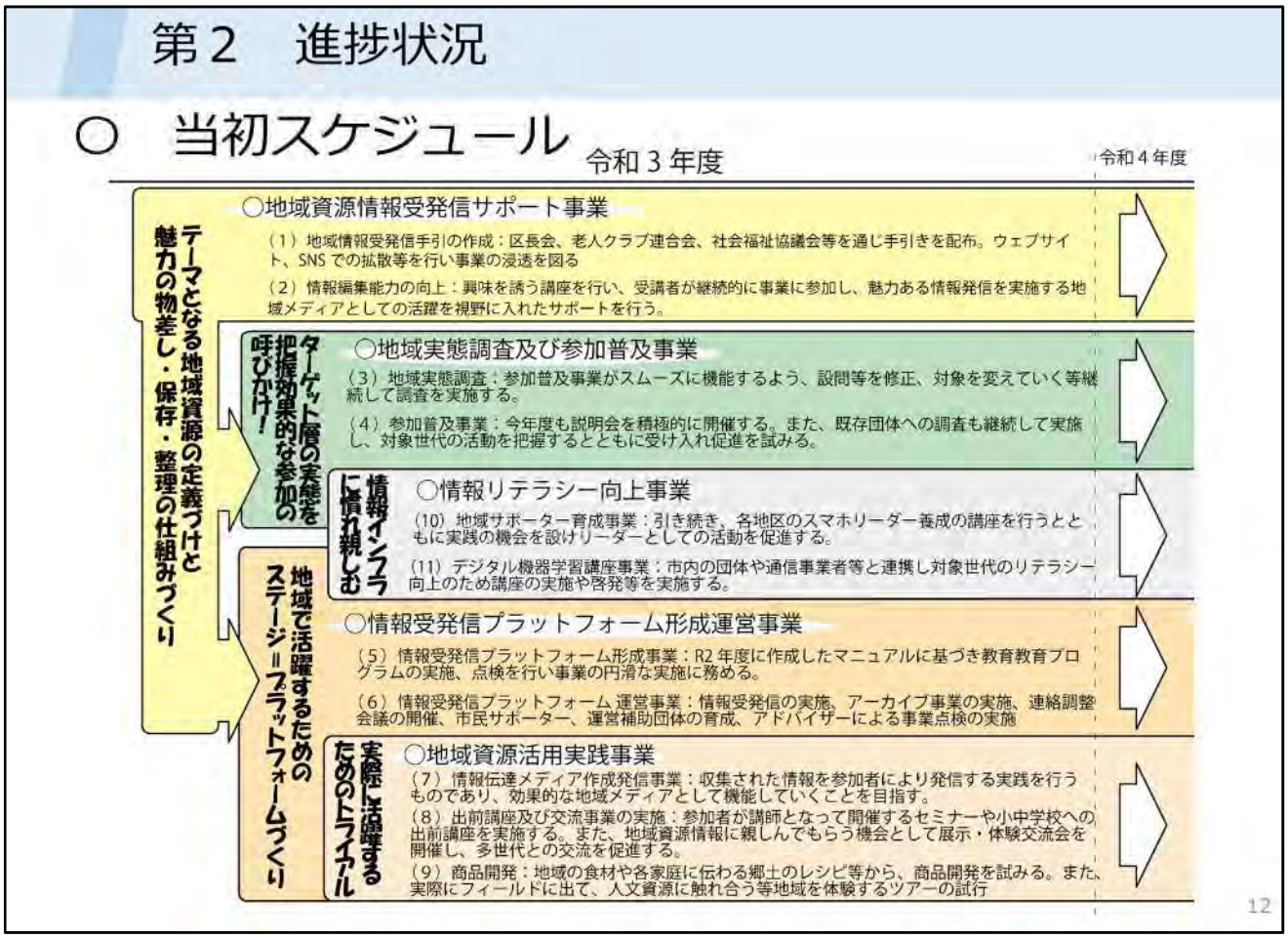


11

【説明者の発言】
　それでは進捗状況についてご報告いたします。

　こちらは本事業のスケジュールです。資料を別添しておりますのでお手元の資料でご覧いただければと思います。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】
　こちらも全体の取組みを大きくまとめたものになります。

　昨年度から継続しての実施となります。今年の4～5月に、先ほどの三浦市地域資源情報プラットフォーム協議会の皆さんと準備を進めました。

　以前から着手してきたものもありますが、今回、この後（シート23）ご紹介いたします二ナイテカレッジという形で企画にまとめました。そして、9月から開 講をすることを目指して広報を進めて参りました。

　しかし、参加者が集まり始めた矢先の8月下旬から緊急事態宣言がありまして当初のような予定にはいかなくて、中止・延期をすることを余儀なくされました。

　今年度は、ほぼ予定通りに始まりまして、二ナイテカレッジの募集も定員の3倍を超える問い合わせがありまして、いよいよというところでしたので、出鼻をくじかれまして、主催者側としては大変大きな痛手となりました。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　進捗状況の概観

コロナ禍で事業が停滞した。

本事業は、市域全体が対象だ。「一部だけ」、「特定の人だけ」という進め方ができず、マスに呼び掛けることを前提に進めざるを得ず、緊急事態宣言下では「呼びかけ」を基本的に止めて、状況を待ってから進めることに終始した。そのためスタッフは萎縮した状況が続いていた。

今後の第6波も危惧される状況であるが、少しずつでも前に進めていこうという気持ちで取り組んでいる。

13

【説明者の発言】
推進協議会でもオンラインで定例会等で打ち合わせを行いました。

下半期の事業のスケジュールを組み直したり、再調整を行いました。別添のとおり、10月に開講変更急遽変更しましたこちらのニナイテカレッジのチラシをお付けしていますので、詳しくはそちらの方をご覧いただければと思います。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　プラットフォームの整備と活動の展開

- アドバイザーの助言により地域資源情報の定義、活動方法等を紹介した活動初動用ガイドブックの作成
- ガイドブックを配布し、多様な投稿の参加の呼びかけを開始。（老人クラブ、区長会、各サロンなど約1500部、講座受講者に配布）
- 説明会の開催（3回開催　延べ23人参加、今後も開催予定）
- 説明会参加者による交流会の開催、新たなグループモデル活動の支援に着手。
- サロン活動、施設等での参加の呼びかけ。（サロン15箇所等）
- 専用ウェブページでの事業の紹介、参加の呼びかけ
- センターによる基本情報、投稿情報の整理・発信に着手。
- 収集保存マニュアルの作成、今後作成する活用発信マニュアルを活用し支援するスタッフの育成。

14

【説明者の発言】
続きまして、プラットフォームの整備と活動の展開について報告します。

こちらに書いてありますけども次のスライドでご案内したいと思います。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】
　昨年度作成しました、こちらのハンドブックがございます。これを配布しながら進めております。

　これまでに老人クラブ、区長会、各サロン等に約1500部配布し、そして今開催している講座等の参加者にも配布をしております。

　上半期は説明会を3回実施することができまして、延べ23人参加し、今後も開催をしていきます。こちらリアルで開催をしております。活動への参加呼びかけとして、サロン15ヶ所のほか、センターの方の専用ウェブページで、事業の紹介などを行っています。

　また、市民交流センターによる基本情報、投稿情報の整備発信、収集保存のマニュアル等、またスタッフの育成なども着手をしております。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　市民による多様な地域資源情報の発信

- 情報編集能力の向上・情報伝達メディア作成スキルアップを図るため講座群を開催（アナログ系　4回、デジタル系6回、フィールドワーク系　3回）**※詳細は別紙を参照**
- 講座を開催し実践のトライアルを実施する。また、講座後のフォローアップを実施する。
- 発信されている情報や発信者に関する情報はセンターのウェブサイトやセンターたよりへ掲載する。
- 幅広く共有されるため「共通＃タグ」などの手法などの利用を呼びかけるとともに支援方法を発信活用マニュアルへ掲載し展開する。

16

【説明者の発言】
　続いて、市民による多様な地域資源情報の発信についてご紹介いたします。（参考：センターのウェブサイトhttps://www.miuracc.org/）

【プレゼン資料】

【説明者の発言】

報編集の能力向上、そして、情報伝達メディア作成のスキルアップを図るための講座というのを、ニナイテカレッジの中で行いました。講座では、実践練習後、フォローアップによって定着と発展をさせていきます。

このスライドに開始当初の写真が載っていますけど、本当にキャンセル待ちの続きでした。申込みを8月にして、やっと10月に来れたという思いでした。私たちが思ってた以上に、ウェブに関する関心が高齢の方達も大変多かった形です。10月の時点ではいくつかの講座ではフォローアップが始まったところです。

また、市民交流センターのウェブサイト（https://www.miuracc.org/地域資源情報/）や便り、SNSで、共通のハッシュタグなどを使って、さらに情報の受発信を進めて参ります。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　活躍していることを肌で感じることができる仕掛け＝価値の最大化（その１）

- 地域に伝わるレシピ、貴重な自然資源、方言、人物との触れ合いなどの体験プログラムのトライアルの実施。

  体験ツアー（関東学院）、食の商品開発（県大）

- 地域資源を活かした出前講座実施の支援（ウォーキング予定）
- 活動内容や活動者のことが理解できる展示・交流会開催（予定）
- 神奈川新聞（三浦市が担当：「みんな三浦びと」）、タウンニュース（人物風土記）、センターブログなど各メディアで掲載されるよう情報共有

地域情報の発信者として
地域メディアへ紹介

18

【説明者の発言】
　活躍していることを肌で感じることができる仕掛けとしては、次のようなことを行っております。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】
　地域に伝わるレシピ、そして自然資源を現物とか人との触れ合いなどの体験プログラムのトライアルとして、関東学院大学による体験ツアーですとか、県立保健福祉大学栄養学科による食の商品開発の企画を進めました。

　また、地域資源を生かした出前講座の実施の支援や、活動内容や活動者のことが理解できる展示や交流会の企画も準備を進めております。各メディアによる情報発信を行っております。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　活躍していることを肌で感じることができる仕掛け＝価値の最大化（その２）

- 大学生との交流の実施。本事業での関わり（関東学院大、横浜市大、県立大）、本事業へのインターン受入れ（明治大、東京大学、関東学院大）
- 小さいけれども、貴重で大切な情報を丁寧に、収集マニュアルに基づき「ネタ」情報として集積
- 集積した情報等の活用方法等を検討する外部機関である「（仮）みうら宣伝会議」は、観光協会、NPO、企業等、参加者を選定し開催
- 市民活動主体の体験プログラム支援は活用マニュアルにフィードバックする。

20

【説明者の発言】
　活躍していることを肌で感じることができる仕掛けのその2として、大学生との交流がございます。

　先ほども出て参りましたが、関東学院大学、横浜市立大学、県立保健福祉大学が、授業で直接研究室が参加をして協力をしてくださっています。

　また明治大学、東京大学、関東学院大学からは、インターンシップの受け入れを行いまして、学生たちが本事業に関わっております。

　具体的には情報収集のマニュアルに基づいて得た情報を集積したりですとか、マニュアル作成に関わる等の協力してくださっています。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　情報リテラシーの向上

- 自治会長、社協、老人クラブ向け講座を開催し地域全体への広がりなどスキルアップを図る。
- SNS活用講座を開催する。受講生から徐々に広めていく。
- アンケートにより情報収集等について把握し、次年度以降の事業を検討する。
- NHKと連携し全世帯へ防災アプリの案内を送付し導入を促す。

自治会長
スマホ教室

防災アプリ
全戸へ紹介

21

【説明者の発言】
　情報リテラシー向上事業では、自治会長、社協、老人クラブ向けの講座を開催いたしました。地域全体への広がりなどを図っております。

　今後、ニナイテカレッジの中に開催するＳＮＳ活用講座から、情報リテラシー普及をします。

　また、アンケートにより情報収集等を行って把握を行い、次年度に向けて事業を検討して参ります。

　それからＮＨＫと連携しまして、防災アプリの案内をそれぞれ送付をして導入を促す予定であります。

【プレゼン資料】

第２　進捗状況

○　表出した課題など

コロナ禍での対象世代への呼びかけが難しくなった。

- 講座の開催が出遅れた。告知も消極的にならざるを得なかった。
- 会議系の招集ができていない。（アドバイザー会議、（仮）みうら宣伝会議　等）
- 活動への参加呼びかけも消極的な状況
- 活動の印象が地味？

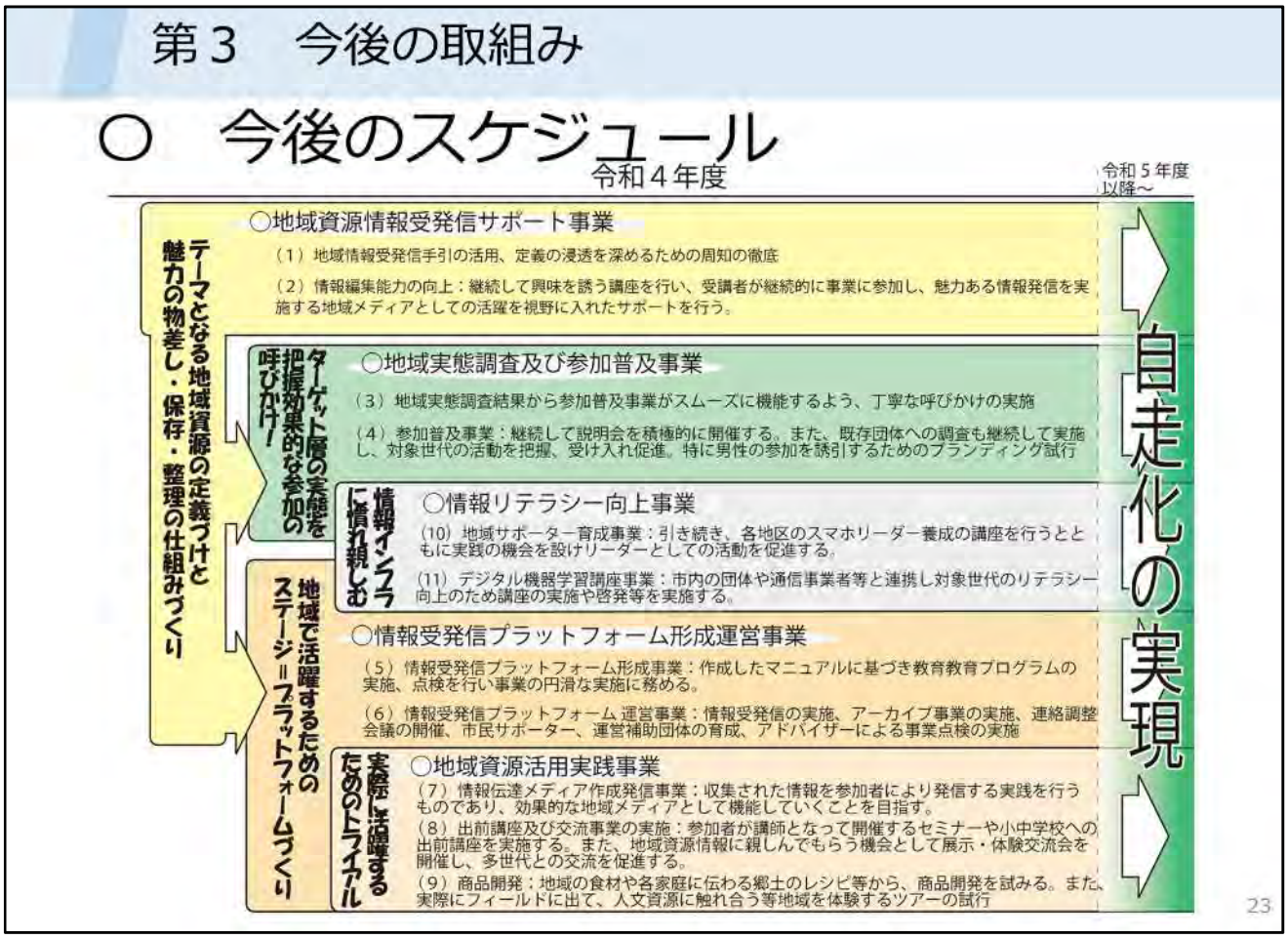
後半で巻き返しできるよう、周知に注力する！

22

【説明者の発言】
　表出した課題についてですが、上半期の軸の中では、初めにご報告したように、企画がまとまって始まるところで募集停止、そして企画の再調整を行って、ちょっと後ずれして10月に一気に始める形になってしまいました。本当でしたら、じっくり関係性を築いたり、フォローアップを行うという時間をかけて丁寧に行きたい部分が、十分でなくなってしまったと認識しております。

　また、その後に繋がる会議等の開催が遅れてしまっているということが起こっております。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】

今年度上半期に取り組めたことと併せて、今月10月よりニナイテカレッジが開始をいたしました。企画を動かしながら、当初描いていた未来へのゴールを目指していきたいと考えております。

【プレゼン資料】

第３　今後の取組み

○　目的達成のための課題

プラットフォームを堅牢な体制に

- いつでも立ち寄れて、経験豊富なスタッフがいる。活動している仲間もいて、自由に活動を始め続けることができる場とする。

参加したいと思える活動へ

- 活動している姿に誇りを感じることができ、成果が地域の宝物となる。これらの活動をデザインの力でより魅力的に見せ、特に男性の参加を促す。

情報の収集・活用を進めるため取集される情報の「知財」としての位置付けの検討

- 地域で暮らしてきた豊富な経験と知見から編集される地域資源情報は地域を知るための貴重な知財と位置付ける。

24

【説明者の発言】
後、目的を達成するための課題として、６つお伝えしたいと思います。

１つ目は、プラットフォームを堅牢な体制にすることです。

2番目、参加したいと思える活動につないでいくことです。

3番目、情報の収集活用を進めるための収集される情報を「知財」としての位置付けを検討していくことです。

【プレゼン資料】

第３　今後の取組み

○　目的達成のための課題

体験プログラムのアクティビティ化の実証

- 埋もれた地域資源も視点を変えたコーディネートで、唯一無二の体験となり、提供者、体験者双方の交流促進。

さらなる新規グループ育成化等初動活動支援の継続

- グループの活動が活発になると、ノウハウの蓄積やネットワークの構築などが図られ波及効果が期待できる。

継続的な大学連携事業の実施

- 地域資源情報と情報提供者をセットでのマッチングが大学ゼミ単位の地域活動に有効と評価され、R5年度以降も継続の申し入れがあった。（県立保健福祉大学、横浜市大、國學院大學など）

25

【説明者の発言】

4番目、体験プログラムのアクティビティ化の実証です。

5番目、さらなる新規グループの育成など、初動活動の支援の継続です。

6番目、継続的な大学連携事業の実施になります。

実施してきた活動につきましては、課題が明確になり、参加者からの反応も上々です。

スケジュールや企画運営にあたりまして、まだまだ調整や対応が必要になっております。高齢者だけではなくて、関わる多世代の方々との交流によってこの事業が自立していけるように、関わった方々のやる気ですとか、期待の声を追い風にして、今後も進めて参りたいと考えております。

【プレゼン資料】

第３　今後の取組み

後半戦も
しっかり取り組みます！
めざせ！早期自走化！

ご清聴ありがとうございました。

【説明者の発言】
以上となります。ご清聴ありがとうございました。

各個別事業の進め方（R3）

2021/1/21

	内容	事業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域資源情報受発信サポート事業	（１）地域情報受発信手引の作成	①手引書を普及させるための事業。 各専門家の視点で地域資源情報を解説・アドバイスの提示、事例紹介、大学生や市民、地域活動者によるデモや実例の紹介等 ②ターゲットや希望者に配布する。	手引書配布	ディレクター助言				ディレクター助言	取材・デモ実施・検証				ディレクター助言	
	（２）情報編集能力の向上	①各界のプロによる講座等スキル向上プログラムの実施 想定される講師：博物学、民俗学、編集者、ライター、カメラマン、映像作家、インスタグラマー、ユーチューバーなど	事業告知 継続告知		前期講座実施				事業告知		後期講座実施	翌年度スケジュール策定		
地域実態調査及び参加普及事業	（３）地域実態調査	①参加普及事業実施のため、高齢者の地域活動への参加状況、地域活動への参加意向などの調査を継続実施。 手法：ヒアリング、アンケート 三浦市区長会、社会福祉協議会、老人クラブ連合会等が連携し、フィードバックする。	対象の選定		調査内容の決定			アンケート発送		ヒアリング実施	回収		まとめ	
	（４）参加普及事業	①ターゲットとなる６５歳以上の参加を促すため、手引書を用いた説明会、デモンストレーションの実施。 ②地域資源情報を取り扱っていると思われる各団体への直接アプローチしヒアリング等を継続実施する。	説明会・デモ事業告知 団体調査対象の選定		調査内容の決定		説明会デモ開催 アンケート発送・ヒアリング実施		説明会・デモ事業告知 関連事業へあっせん			説明会デモ開催		
情報受発信プラットフォーム形成運営事業	（５）情報受発信プラットフォーム形成事業	①市民交流センタースタッフ等作成したマニュアルに基づき教育教育プログラムの実施、点検	教育プログラムの適宜実施		継続して運用する。適宜点検修正									
	（６）情報受発信プラットフォーム運営事業	①連絡調整会議の開催 ②市民サポーター、運営補助団体の育成 ③アドバイザーによる事業点検の実施 ④情報受発信の実施、アーカイブ事業の実施	連絡調整会議定期開催 情報受発信事業継続実施 市民サポーター活動支援		アドバイザー助言			アドバイザー助言				アドバイザー助言		
地域資源活用実践事業	（７）情報伝達メディア作成発信事業	①参加者自らにより、収集された情報を発信する実践を行いノウハウの蓄積を目指し講座を実施する。 メディア：壁新聞、フリーペーパー、SNS、プロモーションビデオ作成など	継続して事業告知 協力者・団体選定依頼			講座①		講座②		講座③		講座④ 翌年度スケジュール策定		
	（８）出前講座及び交流事業の実施	①収集された情報を活用するため講座、交流事業を実践する。 参加者が講師となって開催するセミナー 小中学校への出前講座の実施 市民交流センター等を会場に地域資源情報に親しんでもらうための展示体験交流会の開催	協力者・団体選定依頼 交流会準備				事業告知	セミナー開催 交流会開催		出前講座開催		翌年度スケジュール策定		
	（９）商品開発	①以下の商品開発を試みる。 講師を交えて地域の食材や各家庭に伝わる郷土のレシピ等からの商品開発 講師を交えて実際にフィールドに出て、人文資源に触れ合う地域体験ツアー等	協力者・団体選定依頼			事業プラン策定		食材系トライアル ツアー系トライアル			食材系トライアル ツアー系トライアル		ベイシアへプレゼン まとめウェブへ	
情報リテラシー向上事業	（10）地域サポーター育成事業	①自治会単位等で「スマホリーダー」の養成 ②対象世代へリテラシー向上支援を行う市民活動グループの育成	市民活動グループ発掘・支援			リーダー・区長向けスマホ講座実施					リーダー・区長向けスマホ講座実施			
	（11）デジタル機器学習講座事業	①デジタル機器を使ったリテラシー向上のための学習会の開催 パソコン講座、メール講座、スマートフォン講座、SNS講座等。 ②デジタル機器を使った地域資源情報投稿のトレーニング。 ③市民交流センタースタッフの指導スキル向上のための講習会の実施。	協力者・団体選定依頼 市民交流Cでの投稿トレーニング				講座①	講座② 通信キャリア等スタッフ講習会		講座③		講座④ 翌年度スケジュール策定		
備考														

令和３年度ニナイテカレッジについて

令和３年度ニナイテカレッジは市民活動の基本となる「情報の発見・発掘と編集・発信」のスキルを磨く事に重点を置いたプログラムを実施いたします。情報は使い方によって受け手側の印象が大きく異なります。情報を正確に、かつ、伝えたい思いを乗せて発信できるスキルを磨きましょう。

今年度のコースでは「言葉」「写真」「動画」の３種類を基礎から学べます。また、各種メディアへの展開までを学べるプログラムを用意しました。この機会に「情報」に対する力をつけて、活動に活かしましょう。また、基本的な課題解決の基礎的な力をつけるプログラム等も用意しています。

ぜひ市民の学びの場として「ニナイテカレッジ」へご参加ください。

講座の対象者について

三浦市で以下に該当する方は特におすすめです。

- 市民活動やボランティアに興味のある方、始めてみたいと思っている方
- 市民活動を盛り上げたい方
- もっと仲間を増やしたい方
- 市民活動の成果を広くお知らせしたい方
- 他の団体と交流をしたい方
- ノウハウを得てスキルを磨きたい方

※「令和 3 年度神奈川県地域の支え合い仕組みづくり事業」の助成を得て行う講座（中面※印）は原則65歳以上が対象です。定員に余裕がある場合、65 歳未満の希望者は別途サポーターとして受講が可能です。

ニナイテカレッジ関連事業

・出前事業

市内小中学校や各種施設などが主催する講座の講師になってみませんか。講座受講者で希望する方の出前講座をコーディネートします。

・市民交流センターまつり

１年に一度の市民活動の晴れ舞台「市民交流センターまつり」は皆さんの活動を知ってほしい、仲間をもっと集めたい等のメッセージを伝え、日ごろの活動を知ってもらう機会として市民交流センターで開催します。

その他のイベントも予定しています。イベントの情報は随時 HP 等でお知らせします。

開催場所について

三浦市民交流センターニナイテで開催します。
講座の内容によって、地域でのフィールドワーク活動となる場合があります。

ニナイテ　HP　　#地域の魅力大作戦　　各イベントの詳細

アクセス

・最寄り駅

京急三崎口駅、約 1.5 km　徒歩で約 21 分

・最寄りバス停

京急バス　引橋バス停、約 295m　徒歩で約 3 分

・お車でお越しの場合

横浜横須賀道路「衣笠 IC」より三浦縦貫道路「林出口」
左折国道 134 号引橋前、駐車場：普通車 48 台

三浦市民交流センター　ニナイテ

三浦市初声町下宮田 5-16　ベイシア 2 階
Tel ： 046 - 845 - 9919　Fax ： 046 - 845 - 9229
Email : info@miuracc.org
HP : https://www.miuracc.org/

開館時間：9:00 ～ 21:00
休館日：12 月 31 日、1 月 1 日～ 3 日

令和３年度
市民活動ステップアップ講座のご案内

ニナイテカレッジ

受講者募集！

市民と関係団体が協働していく未来を作るための
新たな学びの場「ニナイテカレッジ」を開講します。

三浦の市民の力は大きな樹、地域に根付いて、笑顔と魅力の花を咲かせましょう！

３つのレベルで講座を開催します。

～「根」を太く～
これから活動をしてみたい！

基礎

市民活動やボランティアに興味のある方、はじめてみたいと思っている方向け。

～「幹」を太く～
活動を豊かに盛り上げたい！

中級

市民活動を盛り上げたい、仲間を増やしたい方、市民活動に役立つ学びや体験をしたい方向け。

～「花」を美しく～
活動の成果が実ります！

上級

市民活動の成果を広くお知らせしたい方、他の団体との交流をしたい方向け

Ninaite Collage 2021

令和３年度　ニナイテカレッジ
年間講座スケジュール

市民の自発的な活動で市民に笑顔あふれるまちにしましょう！

「ニナイテカレッジ」は市民と関係団体が協働していく未来を作るための新な学びの場です。
市民活動のキャリアを積んできた皆さんの更なるステップアップ、支援者・協力者を得るためのノウハウの学び、これから軌道に乗り始める展開期の団体に共通する組織の運営手法、資金調達、仲間集めの手法などの学び、初動期の皆さんにちょうど良い基礎的な学びなど、皆さんが学びたいと思う項目を自由に組み合わせて学べます。

			9 10 11 12 1 2 3	問合せ
市民活動交流会	個人でも、グループでも市民活動の輪を広げましょう。	全て	・12 /12　**市民活動交流会**　・２月　**市民活動マッチングイベント**	1
情報伝達メディア作成発信講座	自分たちの活動の成果を周囲へ伝えるための具体的なテクニックを学びます。支援者や協力者を増やしましょう。	上級	※・10/21・12/9・1/27・3/10　**市民記者になろう 聴いて、書いて、伝える技術**　４回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00 ※・12/10・12/15・1/21・1/26　**実践！ゼロから始める楽しい SNS 講座**　４回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00	1
オンライン会議システム（zoom）講座	オンライン会議システム（ZOOM）の使い方を学びましょう。	中級	※・10/19　**超入門編「Zoom をインストールしてみよう」**　定員５名　14:00 ～ 15:00 ※・10/23　**初級編「Zoom の使い方を知ろう」**　定員５名　14:00 ～ 16:00 ※・10/27　**中級編「Zoom でミーティングを開催してみよう」**　定員５名　14:00 ～ 16:00	1
地域助け合い担い手セミナー	地域の助け合いの担い手に必要な知識と技術を学べます。	中級	-　**地域の助け合い担い手セミナー**　随時（希望地域と調整）-　・２月　**地域の支え合いフェス！**	2
防災ボランティア交流会	有事の際に市内で活動できる仲間を増やしましょう。	中級	・11/20　**防災ボランティア交流会**　定員 20 名　10:00 ～ 12:00	2
地域の魅力を発信しよう ＜情報編集能力向上講座＞	自分たちの活動や、地域の魅力を伝える術を学ぶために「言葉」「写真」「動画」を作成・編集するスキルを学びましょう！	中級	※・10/18・10/25　**現役 YouTuber が教える初心者向け YouTube 講座**　２回連続講座 定員 15 名　14:00 ～ 16:00 ※・10/22・10/29　**三浦をもっと好きになる！インスタグラム講座**　２回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00 ※・11/5・11/12　**読んでもらえるライティング入門**　２回連続講座 定員 15 名　14:00 ～ 16:00 ※・11/19・11/26　**より伝えられる！編集入門**　２回連続講座 定員 15 名　14:00 ～ 16:00	1
地域の魅力を見つけよう ＜情報編集能力向上講座＞	地域の魅力収集に参加しましょう！ 魅力の発見や発掘の手法、見つけた魅力を伝えるための写真や動画に記録するテクニックも学べます。	基礎	※・11/10　**身近な海岸の生物観察**　定員 10 名　9:00 ～ 11:00　※・1/26　**身近な海岸の生物観察**　定員 10 名　9:00 ～ 11:00 ※・11/21・12/19　**我がまちのいいとこ探し＠三浦**　各回定員 10 名　14:00 ～ 16:00 ※・11/27・12/3　**まちの良さを自分の視点で発見しよう！**　２回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00 ※・12/2・12/8　**デジタル時代の写真の楽しみ方**　２回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00 ※・1/18・1/25　**三浦の魅力をみんなで映像に**　２回連続講座 定員 10 名　14:00 ～ 16:00	1
初級パソコン講座	情報を伝える手段として基礎からパソコンを学びましょう。今更聞けないなんてありません。思い立ったら、ぜひ、この機会に学んでください！	基礎	※・10/1　**パソコンを使ってみよう！**　定員６名　14:00 ～ 15:30 ※・10/4　**インターネットを使ってみよう！**　定員６名　14:00 ～ 15:30 ※・10/6　**ワードを使ってみよう！**　定員６名　14:00 ～ 15:30 ※・10/7　**エクセルを使ってみよう！**　定員６名　14:00 ～ 15:30	1
地域の魅力集め方はじめ方説明会	あなたが好きだと思う地域のことをみなさんと共有するコツとハウツーを説明します。	基礎	※・10/28　**地域の魅力集め方説明会**　定員 15 名　13:30 ～ 14:30　※・12/16　**地域の魅力集め方説明会**　定員 15 名　13:30 ～ 14:30	1
市民活動説明会	市民活動やボランティアを始めたい方、協力者や会員を求めたい団体向けの説明会。	基礎	・11/3　**市民活動説明会**　**定員 15 名**	1
市民活動促進ポイント説明会	ポイント事業に参加して楽しみを増やしましょう！	基礎	・12/12　**市民活動ポイント説明会**	3
体が資本−未病の改善	未病サロンとして自分の身体を知り活動に活かせます。	基礎	・9/24　**出張未病センター「体組成を測ろう」**　14:00 ～ 15:30 ・10/25　**フレイルチェック**　14:00 ～ 15:30 ・11/22　**オーラルフレイル「歯の健康」**　14:00 ～ 15:30 ・12/24　**出張未病センター「骨密度を測ろう」**　14:00 ～ 15:30 ・1/28　**コグニサイズで「認知症予防」**　14:00 ～ 15:30 ・2/25　**フレイルチェック**　14:00 ～ 15:30 ・3/25　**イケイケ体操で「筋力 UP」**　14:00 ～ 15:30	2

※印の各講座は令和３年度神奈川県地域の支え合い仕組みづくり事業の助成を得て行う講座です。講座受講対象は原則 65 歳以上の方となります。

開催時間・注意事項など

参加費は無料です。各講座によって、参加者自身で用意していただくものがあります。時間未掲載の講座はお問合せ下さい。

各講座の予約・お問合せ

各講座の予約・お問合せは表右端の問合せ番号の連絡先にお問い合わせください。
状況により中止又は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

1	三浦市民交流センター ニナイテ	2	三浦市社会福祉協議会
	TEL：046-845-9919		TEL：046-888-7347
	受付・9:00 ～ 21:00		受付・平日 8:30 ～ 17:15

3	三浦市市民部市民協働課
	TEL：046-882-1111（代表）
	受付・平日 8:30 ～ 17:15

４（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

（１）「参加」ではなく「活躍」
（２）フォローアップについて
（３）ゴールイメージについて
（４）市民記者について
（５）その他

４（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(1)　「参加」ではなく「活躍」

Q1-1
スライド18～20の『「参加する」だけではなく「活躍する」』とすると、自分が主体的に動き中心にいるという役立ち感が必要だが、参加者が「自分は活躍している」という気分を味わえるものはどこか？

A1-1
・サークル活動をやっている高齢者が、講師や指導者になったりしている。
・プログラムに上級/中級を設定し、１つ参加したら「次こういうのがあるよ」というように追っかけていけるような形にしている。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(1)　「参加」ではなく「活躍」

Q1-2
自分達が中心になって動き、当事業に「乗っかる」だけではない自主的な動きが新たに出てきているところがあるか？

A1-2
・参加者の方から、「自分たちの活動を広めることを自主的にやりたいからその術をもっと学びたい」という意見がある。
・実際にはまだ「活躍の体験」というところまでは行ってないかもしれないが、講師の方々から「あなたたちが持ってる情報とか経験というのは、すごく他の人のためになるんだよ」というようなお話等をしていただいた。
・活躍の疑似体験をその場でしていただくことで、「こういう未来が見えるんだよ」という体験をしていただいている。

Q1-3
（A1-2を受けて）資料では「活躍していることを肌で感じることができる」とあり、現状は「参加」という意識であるが、「自分たちが動かしていく」という方向にも動きつつあるという理解でよいか？

A1-3
・よい。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(2)　フォローアップについて

Q2
高齢者の方が学ぶにあたって、そもそも「手段がない」「手段を学ぶことに抵抗がある」等のハードルがある。フォローアップとしてなにをやっているか

A2
・PC講座ではご自宅からパソコン持参いただくところから始めた。
・自宅のパソコンを使って、お便り作成や自分たちのサークル活動を紹介等を宿題にしている。
・「どうですか」「わからなかったらここで教えてもらえますよ」等、そういうことをスタッフも声をかけている。

〇所感
・インターネット接続する手前等、情報の受発信とは別のところに問題があってなかなか日常的に浸透させることが難しいと思われる。
・日常的に苦しかったり大変なこと、それから、三浦のまちに対する意識や人と人との繋がり等、その全体を包括した形で運営されている感じがした。大変面白い。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　ゴールイメージについて

Q3
当初のゴールイメージどおり、（スライド６の）(10)(11)の方にそのままいきそうなのか？もう少し別の所に軸足があるのではないかと気づかれてるのか？

A3
・ゴールイメージは、今現状としても(10)(11)を目指したい。
・今回のプレゼンでは挙げなかったが、「みうら宣伝会議」の設置を考えている。外部からの視点で集積したアイデアのチェック等を行う場所としたい。
・「みうら宣伝会議」に関わっていただけるような人材や人員をニナイテカレッジ等で探している状況である。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　市民記者について

Q4-1
市民記者が（事業として）回るには、何人ぐらい養成するのか？最終的な規模感はどんなところなのか？

A4-1
・目標としては講座を通して10人ぐらいの方々を想定している。
・そこからまた派生して増えていくことも考えられる。
・参加者ということであれば、100人ぐらい経験してもらえる想定である。継続してやっていただけるキーとなる方々を発見していきたい。

Q4-2
メディア側の確保の方は、今、順調に進んでいるか？

A4-2
・タウンニュース（三浦版）や神奈川新聞には、毎回大々的に載せていただいている。
・高齢者の方々自身が自己メディア（Instagram、YouTube等のSNS）で発信していける仕組みを作っている。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　市民記者について

Q4-3
養成にかかる経費をどう工面するか？市民記者さんはボランティアなのか？

A4-3
・もともと市民交流センターで活動をしている団体にお願いし、活動の成果発表としての場や自分のスキルアップも含めて講習をしていただく。

Q4-4
（Q4-3を受けて）市役所の委託料や補助金、あとは三浦市社会福祉協議会、市民交流センター側の活動費があるが？

A4-4
・市民交流センター事業での実施という部分は検討できるので、うまく乗せて継続していく。
・県立保健福祉大学との連携により、令和５年度以降も予算の部分含めて事業の継続が可能となっている。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　その他

〇所感
メディアを活性化するために市民記者としての高齢者の方を育成して、地域で動き回って情報を集めて発信していただく事業ということで大変期待している。

6 （藤沢地域）プレゼン発表

【藤沢地域の課題（概要）】
【課題解決方法】
【プレゼン資料】／【説明者の発言】

6 （藤沢地域）プレゼン発表

※詳細は末項「（別表）個別事業一覧」参照願います。

【藤沢地域の課題】
〇藤沢市の引きこもりは人口比で４千人弱いるとされる。
〇引きこもりの支援は、次の１～３のステップに分けて考える必要がある。
1　外出し、体を動かし生活リズムを整える
2　集団行動を行う
3　職場が求める生産性で働く

【課題解決方法】
⇒農業はステップ１と親和性が高く、非常に有効である。また、自治体、NPO等との協働により、ステップ２、３に繋げていく必要がある。

【プレゼン資料】

令和３年度　地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和３年10月29日）

引きこもりへの支援分野

新しい支援様式
農園を引きこもりの
活動場所に！事業

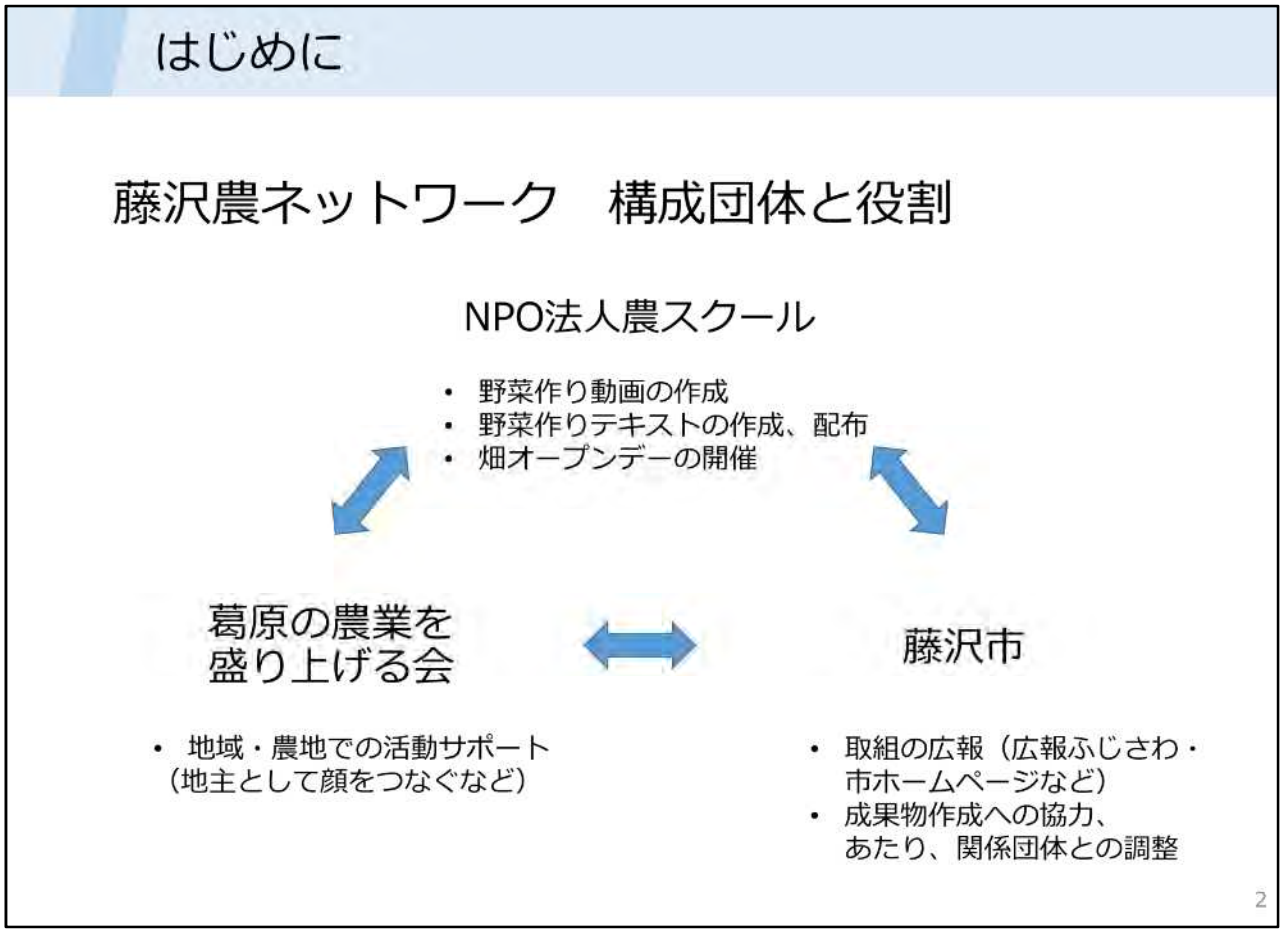
藤沢市農ネットワーク

1

【説明者の発言】
　藤沢市農ネットワークより中間報告させていただきます。報告者ＮＰＯ法人農スクールと申します。よろしくお願いいたします。

　今回は、引きこもりの方への新しい支援といたしまして、農園を活用した支援事業について、報告させていただきます。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】

まず初めに、藤沢農ネットワークというのがこちらに記載してされてある三つの団体で構成されておりますので、それぞれの役割について簡単にご説明します。

まず、一番上のＮＰＯ法人農スクールが引きこもり支援の一環としまして、昨年の10月から野菜づくりの動画やテキストの作成、あるいは農業体験会の畑オープンデーの開等を行っております。一つ一つ具体的な取り組みの内容や進捗については、後程のシートで説明させていただきます。

ページ右下の藤沢市が農スクールの活動のサポート役を担い、広報ふじさわや市のホームページ等で取組みの広報、あるいは、成果物作成の協力や関係団体との調整等を行っていただいております。

ページ左下の葛原の農業を盛り上げる会は、農スクールが現在使用している農地の地主様で構成されていまして、地域や農地での活動のサポートということで、主として顔をつなぐ役割を担っていただいております。

【プレゼン資料】

第1　概要

背景
ウイルスの影響で居場所事業などがストップ

これまでの支援体制の特徴
・室内
・集中
・当事者が現地まで移動

→感染リスクの高い形

3

【説明者の発言】
　まず、事業背景についてお伝えしますと、コロナ禍以前の従来の引きこもり支援体制は、室内の場所に大勢の方が始まって多人数で行うというやり方が主流でありました。

　ただ、こういったやり方の継続が新型コロナウイルスの影響で困難になっておりまして、支援を求める人に対して手が行き届かかなくなっているという現状があります。

【プレゼン資料】

第1　概要

事業目的
農園を使った分散型の支援体制を作る

これからの支援体制の特徴
・室外
・分散
・支援者が農地まで移動
・インターネットなどを使いやりとりを行う

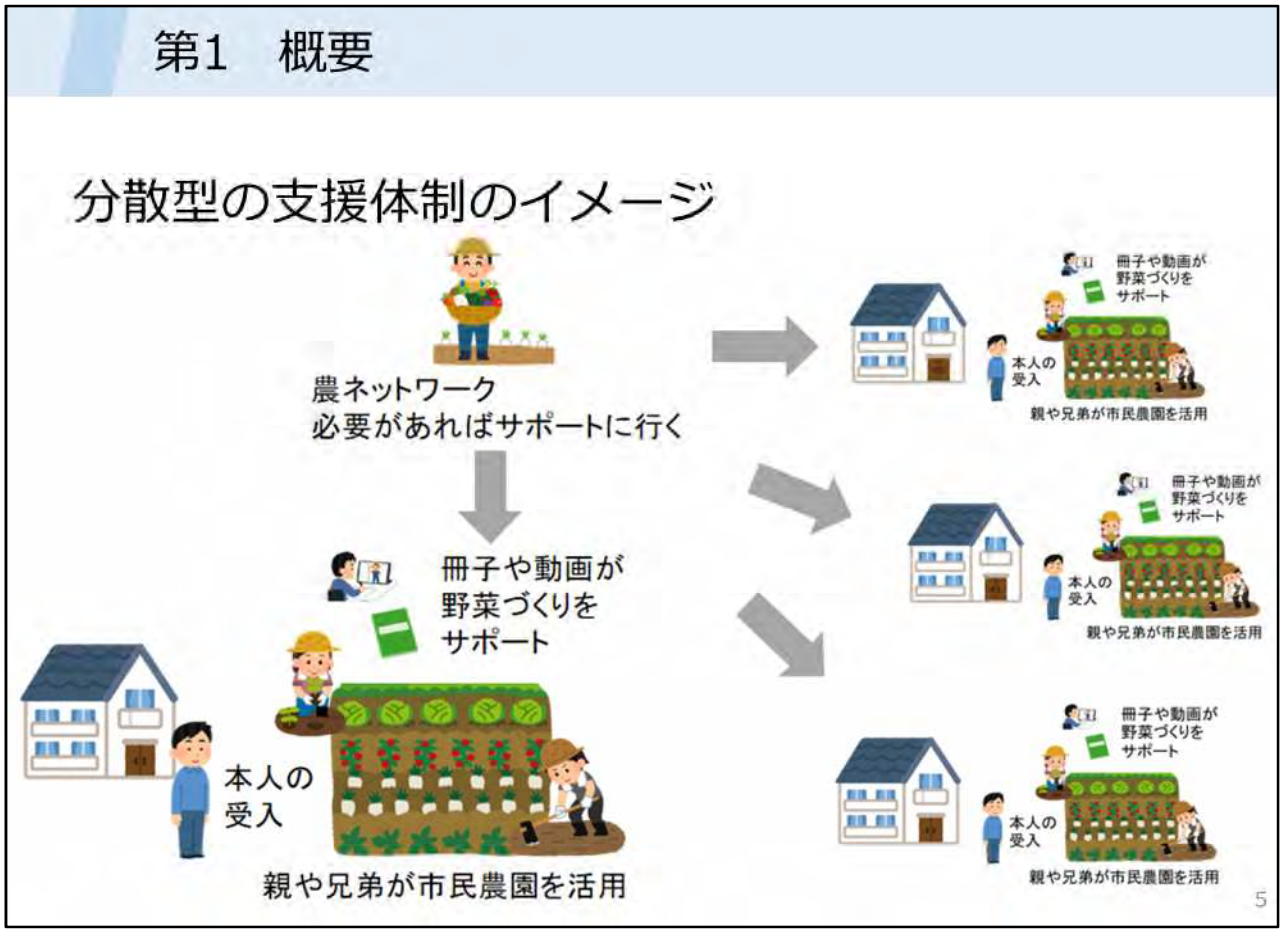
→感染リスクの低い形
→ウイルス感染拡大時、活動を継続しやすい

4

【説明者の発言】
　そこで、従来のひきこもりの支援に代わり新たな支援体制ということで、今回は、農園を活用した分散型の支援体制を提唱させていただきたいと思います。

　具体的な特徴としましては、農作業ですので室外に人が分散して集まって行うことが大きな特徴になります。
　また、座学に関しても従来のように一つの室内の人数が集まってというのではなく、インターネット等オンラインを使ってやりとりを行うことで感染リスクは低くなりますので、コロナウィルス感染拡大中の活動を継続しやすいというのが大きなメリットになってきます。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】

　こちらのイメージ図では、（本事業の支援者は）農ネットワークからのサポートに加えて、当事者のご家族ですとか身の回りの方を引きこもり支援の方を想定しています。

　そういった支援者の方が、野菜づくりに関する写真や動画、あるいは、市民農園を活用することで、分散された様々の場所で誰でもどこでもいつでも支援体制を提供できるといった環境を目指していくというのが、今回目指している分散型の支援体制となっております。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】
　ここからは昨年度からの実績として事業報告させていただきます。

　まず初めに「農業の始め方テキスト」ということで、これは『農の力で一歩踏み出すブック』というテキストを藤沢市と共同で作成いたしました。

　主な内容としては、野菜づくりの始め方についての紹介、本格的な援農や就農のやり方についての紹介、あるいは、藤沢市にある市民農園、地域住民の方を対象にした居場所である「地域の縁側リスト」の紹介等を示しております。

　こちらを2500部ほど作成しまして、神奈川県の共生推進本部室や、藤沢市の農業水産課、地域地域共生社会推進室、あるいは、こちらのシートに記載してあるその他の営業、医療現場等で、約1300部ほど配布を行っております。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】

報告の二つ目になりますが、農業の始め方ということでホームページと動画の作成を行っております。こちらはまだ動画の作成が完了はしておらず途中段階の状態です。

農業をしていくには、道具の用意、土づくり、野菜の種類に応じた種まき～収穫までいろいろな工程がありますので、そういった一通りの作業項目を細分化した動画を作成しております。

こちらは藤沢市のホームページにも、リンクを貼って、今後、広報活動を行っていくといった予定になっております。

【プレゼン資料】

【説明者の発言】

報告三つ目としまして、農業体験会と相談会である「畑オープンデー」を開催しております。こちらはご家族や身の回りにひきこもりの方がいる方に向けて、実際畑にお集まりいただいて農作業を通じた体験会や相談を行っています。

こちらは、畑での居場所づくりや支援活動を始めるという最初のきっかけづくりということで、月一回実施しております。

こちらは広報ふじさわやFacebook広告等で、広報を行っており、これまで月一回の5回行って延べ33人参加いただいております。

【プレゼン資料】

第3　今後の取り組み

新たに見えてきた点・課題

新たに見えてきた点		例
オープンデー参加後、次のステップとなる場を用意しておくことが重要 **オープンデーは体験会として募集しているため、大勢で集まる場に抵抗のない方が参加する傾向にある**	→	・毎週開催のもやい畑※につながった例 ・鎌倉市と農スクールの共同開催プログラムに興味を持たれた例 ・農スクールに通うことになった例

※もやい畑：藤沢市と、認定NPO法人自立生活サポートセンターもやいが協働で取り組んでいる、畑を通じた居場所づくり事業。毎週木曜日に実施。

課題		対策
いかに次のステップを増やせるか 農業に興味を持った人に対して、農業に関わる方法を周知してきた 今後、**農業を支援活動として活かす人がいる場所を増やす**ことが重要	→	**トレーナー（農業を通じた自立支援プログラムを運営できる人）を各所に増やす** トレーナーの存在が、次のステップに進める人を増やす事につながる

9

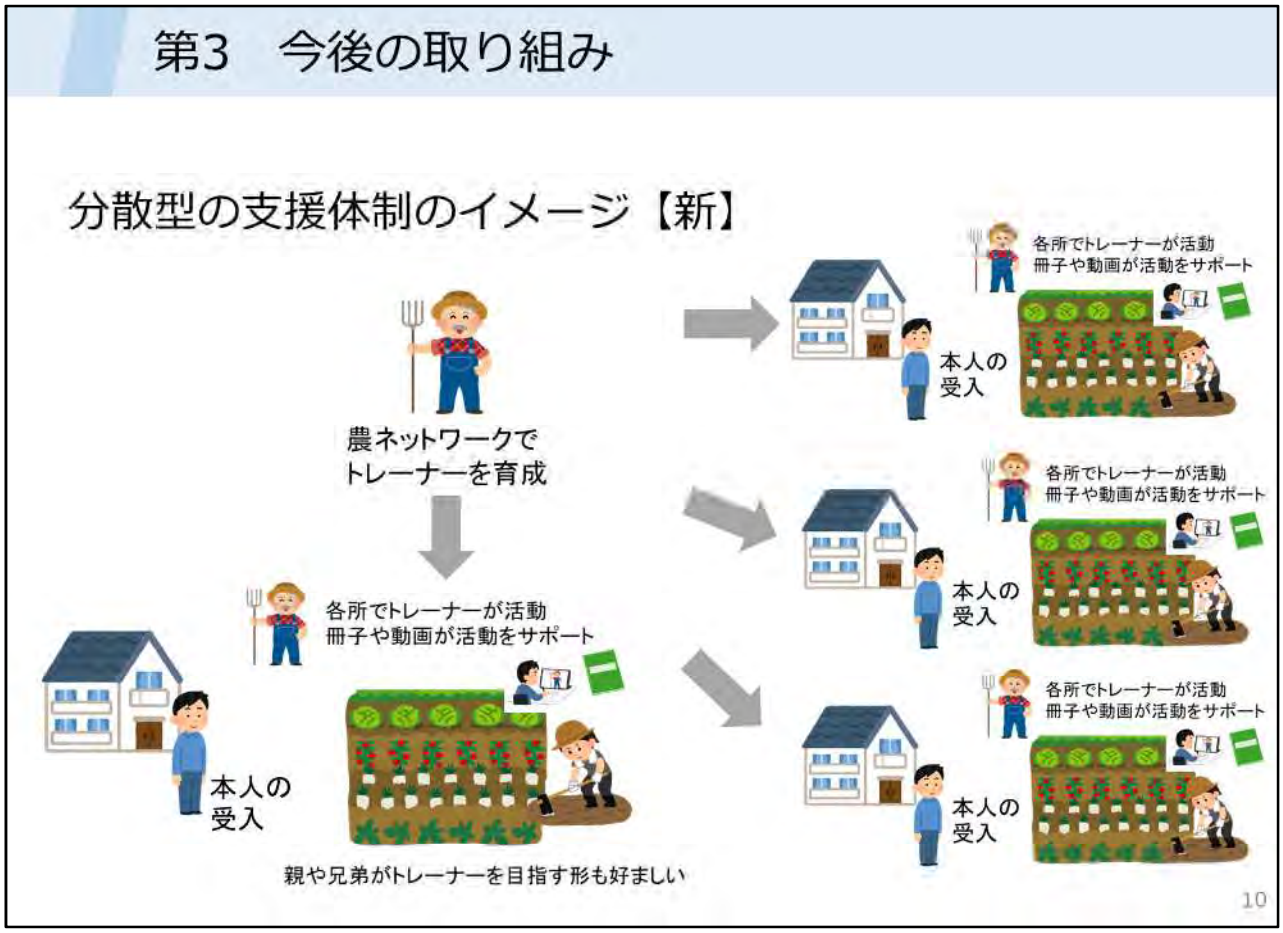
【説明者の発言】
　三つの事業の進捗状況を踏まえて、新たに見えてきた点というのが、先ほどのスライド８でありました「オープンデー等に参加した後の、次のステップとなる場を用意しておくこと」が重要だということです。
　スライド右上の例のところにあるように、その次のステップとは何かということで具体例を三つほど記載しております。

　まず、一番上の「もやい畑」は、藤沢市と認定NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」が共同で取り組んでいるもので、毎週実施している畑を活用した居場所づくり事業になります。また、月1回実施している鎌倉市と農スクールでの共同開催プログラムや。働きづらさを抱える人に対して農業を通じた就労支援事業としての農スクールといった、これらのステップが考えられます。
　こういった、次のステップに移行していただく事を増やしていくということが今後重要になっていく、と考えております。

　これまでの課題としては、「畑オープンデ―」のようなイベントを単発の取組みで終わらせないために、いかにその次のステップの場所とその担い手をふやしていくかということが考えられます。これまでは野菜づくりのテキスト、動画等で興味を持った方に対して、どういった農業への関わり方があるかという事をお伝えしていくことがメインでした。

　しかし、今後は、担い手となる方、ここでは「トレーナー」として定義し、農業を通じた自立支援プログラムを運営できる人を各所に増やしていくことが重要だと考えます。そういったトレーナーを育成することに、来年度以降は比重を置いていきたいというふうに考えております。

【プレゼン資料】



【説明者の発言】

最後にこれまでの事業活動を踏まえ、新たなイメージ図になってくるのですが、引きこもりの方への支援の担い手となるトレーナーを育成して、各地で活躍していただくことで、より広い範囲の支援というのが可能になると考えます。

そのトレーナーとして、「これまでに就労支援の経験がない農業者の方」ですとか、あるいは反対に「これまで農業経験がない福祉の従事者の方」、この両者それぞれのアプローチの仕方が異なると思いますので、それぞれの方を対象にした育成というのが今後必要になってくるかと思います。

そのために、次年度は、オンライン講習会と畑での実技の講習を中心としたトレーナーの育成講座というのを実施する予定でおります。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

7 （藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

（１）畑オープンデ―について
（２）トレーナーについて
（３）行政の協働について
（４）藤沢市の引きこもり支援について
（５）自走化について

7 （藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(1)　畑オープンデ―について

Q1-1
パンフレットを作り広告もしているが、実際にオープンデ―を開催するにあたり、想定していた参加人数はそもそもどれぐらいだったか？目標人数に届いているのか？

A1-1
・各回は6人から10人程度の参加者という想定である。
・目標には届きつつある。

Q1-2
当事者の周辺の方も対象としているが、ご本人に繋がりそうな感触というのは、今の時点でどうか？

A1-2
・実際に引きこもられていた方も参加している。
・当事者の周辺の方に伺うと、「外に出てくるにはちょっと時間かかるだろう」という方もいれば、「次チャンスがあればちょっと一緒に声かけてみよう」というような状態の方もいる。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(2)　トレーナーについて

Q2
何人ぐらい養成して、どれぐらい展開するか？

A2
・まず10名ほど育成できればよい。
・来年度、概ね10時間から20時間ぐらいで提供できる講座の提供を行う。
・福祉の知識がある方だと農業の知識だけでよく、農業の知識がある方だと福祉の知識だけでよい。受講生の知識と経験に合わせた講座を用意する。

〇アドバイス
・ある程度ちゃんと任せられるような方になっていないと、それこそ逆効果というところもあると思う。今まで農スクールとしていろいろ経験されてるところを活かしていただきたい。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　行政の協働について

Q3
行政の視点から、特に畑オープンデーの取組みを、どのようにサポートし連携強化をしていけるかコメントをいただきたい。

A3（1/2）
（藤沢市）
・藤沢市地域共生社会推進室は引きこもりの方々からの相談機関である。
・生活困窮者支援の相談にて関わっている、いわゆる引きこもり状態の方々何人かに、当事業についてお知らせしている。
・就労準備支援事業とコラボしながら、就労準備以前の支援も含めて、農のフィールドを提供できるような機会と考えている。

（協働体制）
・社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーをパートナーとして、農福連携等の事業をいろいろと一緒に取り組んでる
・藤沢市と藤沢市社会福祉協議会では、家族会支援も行っている。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　行政の協働について

Q3
行政の視点から、特に畑オープンデーの取組みを、どのようにサポートし連携強化をしていけるかコメントをいただきたい。

A3（2/2）
（適切な支援に向けて）
・外に出て農作業するというのは、引きこもりの支援の段階では、ある程度ステップアップした段階と考える。
・ブックの活用や、プランターを使って自分でやってみようとか、市民農園を使ってみようとか、ご自身やご家族と一緒にできるような外出の少し前段階の啓発も行っている。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　行政の協働について

〇所感
・農福連携や家族支援の話も参考になり、とても有効だと思う。
・テキスト作成をして2500戸配布・頒布されたことも、このコロナの状況で手元に来るのはすごくいいことだと思う。
・動画作成されて、市民農園のリンクを張られていることもすごく充実してきていると思う。
・畑オープンデーが唯一人と触れ合える場があって、少し道筋が見えるという形になっていて、大切な取り組みだと思う。

・やはり難しいところもあって、体験会として募集してるので大勢で集まる場に抵抗のない方が参加するというコメントがスライド９についていたりするように、現場を仕切っていくことは、なかなか難しいところがあると推察される。
・この辺り、様々な経験のある方が入って、行政が今後の連携の仕方が見えると、もっと良くなると思う（農福連携の「農」のところは今少し見えてきているが、「福祉」のところでもう少し形が見えるとよい）。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1
引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1（1/3）
（藤沢市）
・まず、地域共生推進室自体が自立支援相談窓口である。

（協働）
・藤沢市の社会福祉協議会の方でも同様な形で自立相談の窓口がある。
・ボランティア活動へつなげるのは社会福祉協議会の方が得意である。

⇒次ページへ続く

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1
引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1（2/3）
（適切な支援に向けて）
・就労・働きたいということであれば、一緒に働く前の段階で、例えば、履歴書の書き方や色々な方々と会って話を聞く等そういったところを一緒にやっていく。
・社会福祉協議会の中に「社会参加事業」がある。社会福祉協議会の中で生じる「ちょっとしたお仕事」をお願いする。その方の得意分野を活かしながら（パンフレットの挿し絵を作成、手作業の得意の方であればちょっとした手作業）、社会参加の第一歩として本人の自信にも繋がるという事業が一つの受け皿となっている。

⇒次ページへ続く

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1
引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1（3/3）
（就労支援）
・ユースワークふじさわという就労支援機関に繋ぎ、自立支援プログラムで就労サポートを行う。
・農業に興味があったり農業界に就職したいという方は、農スクールが農家と繋ぐ取組みをしている。出口は農家への就職という形になる。

（本事業の位置づけ）
・農福連携の話の中で、色々な多様性や当事者の特性に合ったやりたいことができることを寄り添いながらやるという意味では、色々なオプションが必要で、（本事業は）野外で作業するという有力なツールの一つである。
・ひきこもり状態だった方が代表である団体（※2001年に設立された引きこもり支援団体「ヒューマンスタジオ」）とアドバイザー契約し、相談窓口をお願いしている。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　藤沢市の引きこもり支援について

Q4-2
（A4-1を受けて）そこに繋ぐだけでは駄目であり、その人に応じた繋ぎ方が必要であるということか？

A4-2
・居場所がほしい、農家に就職したい、一般就労ではなく福祉的就労を目指す方様々である。その方に応じたメニューはもともと農スクールで準備している。
・今拠点が藤沢だけになっており、それ以外の拠点を増やすという意味で次の展開として、トレーナーを育成していけば各地で（いわゆる藤沢より広域で）できると考える。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　自走化について

Q5
事業の継続性について、藤沢市の考えとしては、生活困窮等の資金・財源を再来年度以降も続けていくイメージか？

A5
（行政）
・行政としては、愛の輪福祉基金（※ふるさと納税関係の寄付金）という寄付金を活用した補助等の可能性もある。
・居場所づくりのための補助金として、「地域の縁側」事業という屋内のサロン事業のような形の補助体系もある。
・農スクールが今まで培ってきた実績があるので、居場所プラスアルファの踏み出し方というのも考えられる。

（農スクール）
・使わせていただいてる畑は、もともと耕作放棄地であり、そこを管理費用として地主さんから寄附を頂いている。
・例えば、経済的な困っていないが引きこもってしまってる御家族や身の回りの方々に、運営のご協力ということでご寄付いただいたりしている。

別　表

個別事業一覧

	分野	協議体名（構成組織）	事業名	現状における課題認識
1	高齢者活躍の仕組みづくり支援	城島活力創造推進協議会 ＜構成組織＞ ●城島地区地域活動推進会議 ●平塚市 ●（特非）湘南 NPO ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ	地域資源活用による交流型体験の里づくり事業	【背景】 ・城島地区は平塚市北部の伊勢原市境界に位置する田園地域で、ほとんどの地域が市街化調整区域になっていることもあって、急速な人口減少、少子高齢化が進行している。 ・そのため、スーパー、病院等の生活支援施設も極めて少なく、小学校児童が減少する一方で、農業従事者の高齢化による休耕や耕作放棄地が増加しており、地域運営の持続が危ぶまれている。 【現状】 ・これまで、個別農家でのイチゴ農園やバラ農園、地元 JA の直販店等の取り組み行われているが、地域全体の連携、活性化には結びついてはいない。 ・既存集落周辺は農用地区域が広がり、農地外への転用には農業委員会との協議、地域での合意形成が不十分となっている。また、空家・空地も増加傾向にあり、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づく利活用を模索している。 ・「地域活動推進会議」が主体となって対応策の検討に着手しているが、課題が正確に把握できず、その共有化も十分ではなく、足踏み状態になっている。 【認識】 ・今後の農地や空家の利用、生活環境の維持・向上が課題であり、若年層や農外就業者の定年後の地域運営への参画の仕組みづくりが課題となっている。 ・そのため、令和 2 年度に実施した将来の居住・就業・土地利用意向等の把握のためのアンケート、地元高校生、大学生を交えたワークショップ等を踏まえ、交流人口を増やしていくための対策を検討する。 ・これらをもとに、農・食・学が連携した体験交流型活動の展開とその運営組織を立ち上げ、「身近に農がある暮らし・地域」の中で子育てしたいと思えるよう次世代が住み、働いていける環境・基盤を構築していく。

	分野	協議体名 （構成組織）	事業名	現状における課題認識
2	高齢者活躍の仕組みづくり支援	三浦市地域資源情報ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ推進協議会 ＜構成組織＞ ●三浦市区長会 ●三浦市 ●(特非)YMCA ｺﾐｭﾆﾃｨｻﾎﾟｰﾄ ●（社福）三浦市社会福祉協議会	Don't tell anyone! 地域資源情報を集めて広めて繋がろう大作戦！	【背景】 三浦市は三浦半島の最南端に位置し一次産業が中心の人口約 42,000 人の都市である。公共交通機関は市の北部のみ京急線の駅が届き、市内移動はバスに依存している。高速道路はなく、交通インフラの未整備からか、現在まで都市化が進まず、地域に伝承される郷土芸能などが数多く継承されている。人口減が続くが、人口を維持するための背策に大きな成果は上がっていない。高齢化率 40%を超えており、唯一の自慢できる数字は 90%以上の自治体加入率である。NPO 法人は 23 団体で地域活動は自治会活動が担っている状況である。 【現状】 三浦市社会福祉協議会が、地域踏査やサロン事業を行い地域における高齢者コミュニティ観察・育成活動を行っている。地域活動では圧倒的に女性が中心で男性の参加率は少数である。また、企業に勤めていたリタイア組は地域とのかかわりが希薄で、交流経験がなく参加機会が乏しい。団塊世代が 70 代を迎え、このようなリタイア組が増加し、引きこもってしまうと地域活動が停滞しコミュニティ全体へ影を落とすことになりかねない。 さらに、高齢世代が直面している情報入手の課題がある。コロナウイルス関連の情報伝達を通じて露呈した。従来自治会の重要な情報伝達事項であった回覧板がリスク回避で使えなくなった。広報誌や回覧板のタイムラグの問題はあるものの重要な情報伝達手段である。今後、高度衛生配慮を理由に市民へ情報伝達がデジタルに置き換わることも想定される。 【認識】 令和元年６月に開業した三浦市民交流センターは「市民活動支援施設」、「地域資源情報の受発信」機能という２つのミッションを有している。高齢者が活躍する場を「地域資源情報の受発信」と結びつけることで、「社会参加することによる生きがいづくり」、「楽しみながらデジタルスキルが向上する機会」双方について、センターを中心に課題を解決するサイクルが動き出し、持続可能なスキームとして構築できると考えている。

	分野	協議体名 （構成組織）	事業名	現状における課題認識
3	引きこもりへの支援	藤沢市農ﾈｯﾄﾜｰｸ ＜構成組織＞ ●藤沢市葛原の農業を盛り上げる会 ●藤沢市 ●（特非）農ｽｸｰﾙ	新しい支援様式 農園を引きこもりの活動場所に！ 事業	【背景】 自宅に半年以上閉じこもっている引きこもりの方が 115 万人（2018 年）を超えるなど、全国的に数が増えている。そしてそれらは藤沢市も例外ではない（人口比で 4,000 人弱（藤沢市人口約 44 万人））。藤沢市は都市からも近く、農園も多い場所としてこれまで農業と福祉の連携（農福連携）等が行われてきた。農業の現場を引きこもりの支援にも生かす仕組みづくりが藤沢市に求められる。 【現状】 様々な団体が引きこもりの支援を行っている。しかし、それらは基本的に屋内の施設を使い、そこに集まって行うという手法である。今回、新型コロナウイルスの感染拡大によって室内に不特定の人が集まるというリスクが顕在化したことにより、今までのやり方を見直す必要がある。 また、農業を引きこもりの支援場所として考える際、居場所づくりを考えると市民農園や近隣農家の農園の利用が考えられる。しかし、市民農園を管轄する部署や仕事としての農業を管轄する部署は居場所事業を担当としていない。それら農園を支援場所として生かす活動が考えられる。 【認識】 引きこもりの支援を考えるとき、いくつかのステップに分けて考える必要がある。例えば引きこもりが働くことになることを目指すとなると、大きく３つのステップが考えられる。「１　外出し、体を動かし生活リズムを整える点」「２　集団行動（家族以外の人とのコミュニケーション）を行う点」「３　職場が求める生産性で働く点」である。 支援活動は、現状、施設に通うことなどで生活リズムを整えたり、何かしらの集団行動を行ったりする１と２のステップへの支援が主である。しかし、ウイルスによってこれまでの支援活動を行うことが難しくなると、２のみならず１も行えなくなる。時間をかけて築いた集団行動への慣れや生活リズムが元に戻ってしまう危険がある。そこで家族で行える手法や、屋外で、しかも家の近くの活動場所を作ることが要請される。